次ナキ故ヨリ之程度モ明ナラス
苟ニモ法ニ違ハサルト雖モ変ニ近シ然レトモ
一旦政府ト議会ト一致シ難キ点ハ之ヲ解ス
一致セサル限リハ本ノ会意ヲ有効トスルカ如キモノナシ
依テ之ヲ数ヘ問ヲ続ケ可キモノナシ
延テ之ニ対スル其他ノ不備ニ依ルナリ
日本憲法ノ明ナル度ノ豫算ヲ執行スルト定メタル機械的ニテ
法理的ナル又豫算ノ性質ヲ定会セサルモノナリ唯正ニ矯ニテ
足ラサル者ナリ前ニ度ノ豫算ト異ナルトキハ政府ハ議会ニ
政府カ豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算外ノ支出ヲ為シタルトキハ
議会ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要スルトキハ政府ハ其効
力ヲ已往ニ溯リ始メヨリ豫算カ無効ナリシ如ク責任解

除セラルヘキ理由ニ基ク支出ヲナシタルトキハ会
計検査院ノ場合ニ責任ヲ当然ニ解除セラルヘキモノナリ若シ豫算外ノ
支出ヲ為シタル会計検査ニ対シテ責任ヲ生ス故ニ議会ニ対シテ政府
諾ヲ求ムルヲ要ス豫算ニ追加修正ヲ求ムルト同シ理ニテ政府ニ責任ヲ解除ス
ル法案ヲ若シ議会カ承諾ヲ拒ミタルトキハ行政官ノ処置ニ属シ豫算外ノ
処置トナリ会計法ニ依リ会計検査ニ対シ責任ヲ生ス
会計検査ニ対スル責任ヲ解除スルハ政府ノ承諾ヲ必要トスル法理
上ノ説明ニ過キスシテ承諾ト雖モ政治上ノ理由ニ基ク問題トスル
ハ可ナレトモ会計法ノ出納上ノ責任外ハ法理上議会カ免除スルヲ要ス
又主務官ニ対スルモ然ハ議会ハ決算ヲ案理スル権限ナル故ニ政府
諾ノ無ク権限ナリ

普通ノ教科書ニ国会ハ権利者ヲ上奏権ヲ有スル者ト雖建議

権トスルモノナリ此等ハ議会ノ権利トシテ立法ノ上又ハ豫算議決ノト同ジク認可ヲ議会ニ求メ其ノ為ニ得ルトキハ之ヲ国会ノ成立ニ条件トナルベキモノニ外ナラズ例ヘバ上奏ノ事ヲ為サズ天皇ノ裁判ヲ質問ヲ為サズ又ハ政府ヲシテ答弁ヲ為サシムル可ラザル如キ者ニ外ナラズ我ガ誘ヲ為ス如キ事数ヲ出ス如キモナリ之ヲ権トスル可ラズ議会ノ多数ヲ以テ政府ヲ追ヒ立ツル又ハ議会ノ如キハ議会ノ物議セサシハ成立セサル故ニ法律部ノ行為トハナリ故ニ立法豫算ト同一視ス可ラズ

政府ハ憲法上ノ大権ヲ執行スル府ナリ統治ノ機関ナリ君主カ大権ヲ行フ又即チ統治ノ働キナリ君主カ大権ヲ行フニハ政府ヲ通シテ行フトキハ憲法ノ規定ナリ立法司法ニモ君主ノ統治ノ行使ナリ而シテ又国会又ハ裁判所ヲ通シテ行フ如ク大権ヲ行フニハ政府トシテ憲法上機関ヲ通シテ行フナリ大権ハ君主親裁ノ政務ニシテ範囲ヲ親裁トハ君主単独ノ意思ノ決定シテ行フヲイフ保護者ノ決定カ君主ノ単独ノ働キニシテ憲法ニハモノシシテ君主カ自ラ足ラザルトキハ施行スル義ニ外ニ故ニ事政ノ問ニテモ事度上有司官ヲ置キテ大政事ヲ行フ之ヲ行フ者ハ政府ニシテ君主カ大権ヲ行フニハ必定ノ機関ヲ通シテ之ヲ行フ者ハ政府ト称スルナリ故ニ政府トハ文字シ自ラ商ニ通リ也数的説明ヲ基ストシテ通俗ノ用例ニ於テハ曖昧ナル意義ニシテ時

政府 大臣 政府

トシテ君主ヲ指シ時トシテハ行政官吏ヲ指シ時トシテハ丸テ政府ノ職ヲ保チ称スルヲ如シ亦憲法ニテ議院ノ職ヲ分チ且ツ裁判所ヲ除キ其他ノ者ヲ政府ト称スルヲ先ヲ立憲政体ノ下ノ慣例ナリトモ得ベシ然レトモ仏国ニテ大統領ヲ政府ノ長ト称スル君主ヲ称シテ Souverain ou chef de l'état トスルコトアリ又独乙帝国ニテ Reichskanzler ト云フ政府ノ長官ナリトスル趣意ナリ国会君主ハ裁判所ノ職ヲ兼ル憲法上ニ相対時ニ故ニ憲法上則チ政府ト云フ辞ヲ用ヒタモ君主ト云フ職ヲハ即チ我々ノ云フ政府ニハ職ヲ分リ何トナレハ仏独ノ憲政体ノ振合ニテハ君主ハ行政権ヲ有スルモノニテ立法権司法権ヲ有セス故ニ議院ノ職ヲ上ニアル主権者ニ帰スルナリ

我憲法ノ解釈トシテハ政府ノ裁判事務ノ普通ノ解釈ヲ其儘ニ採用スルヲ能ハス政府ハ君主ノ事務所ヲ司ル者ニ外ナラス君主ハ政府ノ者ニ外ナラス政府ハ陛下ノ政府ニシテ君主ハ政府ヲ監督シ政府ハ君主ノ使役スル人ニ外ナラス君主ハ議院ノ職ヲ兼ル政府ハ其本ニ出ル者ニシテ今更詳シク弁明スル要ナシ尚ホ憲法第一条ヲ正キ解釈スルトキハ君主ハ議院ノ職ヲ兼ルトスル説明ハ此処ニ照應シテ政府ハ君主ヲ其大権ヲ行ハシムル職ヲ司ル解セサルヲ得ス仏独ノ憲法論ハ悉ク政府ト君主トヲ区別シ政府ハ然ラス是ヲ以テ我憲法ヲ論ス可カラス政府ハ憲法上ノ職ヲ有シ其存在ハ憲法ニテ定ムル職ヲ有スルトキハ行政官府ハ大権ヲ設ケタル定ノ憲法上職ヲ失ハシムルヲ得ス之ヲ仏国ノ裁判事務ニ例

ナシ区別セサル所ナルヲ故ニ特ニ此辯明義ヲ注意セシ如シ注意セシテ政府ト式
ヘ知事ヲ郡長モ勅令ニ於テ官吏ヲ補助ス
ニシテ大臣ト行政ノ区別ヲ混同シ君主ニ行政ヲ行フ人ヲ解ス故ニ条約
ヲ結ブモ宣戦講和ノ権ヲ行ヒ往来ノ警察取締ヲ為ス如キ権
行政ヲ行ヒ故ニ大臣トシテ行政ヲ分離シ高ク考サレ設ケ政
府ト変ジ然ル意義ニ用ヒ難キ然ル官吏ヲ政府ヲ以テ認メン我
憲法ノ眼目ハ大臣ト行政トノ区別ニ在リ他ノ法令トノ区別ニ大臣ハ
憲法ニテ定ム行政ト大臣ノ下ニアリテ法令ヲ執行スルモノ例ヘハ知事郡
長ノ如キ官府ハ大臣ニテ即チ勅令ニ或ハ之ヲ設ケ或ハ廃ス大臣無
ハ得勅令ニテ存廃シ廃減スル能ハス大臣ヲ行フ政府即チ国務
大臣枢密顧問ハ大臣ヲ存廃スル得ス国務大臣又ハ枢密顧問
廃シ若シハ其権限ヲ変更セントスル憲法ノ改正ヲ要スル故ニ政府ハ憲法

上ノ機ヲシテ大臣ヲ行使スル為メニ置ク所ノ機関ニシテ大臣ニテ設ケ
大臣ヲ以テ権限ヲ授ケ行政官府ハ政府ト反対セサル間ニ於テ政府ハ憲
法上ノ機ヲシテ行政ノ官府ハ大臣ヲ以テ設備スル行政ノ機関ニ
ヲ例ヘヘシ
政府ハ大臣ヲ行使スル為メニ機関ヲ以テ政府ハ大臣ヲ行フ所ノ
ヲ行使スル主体ハ君主ナリ保シ憲法ノ規定ニ依リ君主ハ大臣ヲ行フ
政府ハ機ヲ通シテ行フトキハ政府ハ君主ノ大臣ノ
行使ヲ補助スルトキニ例ヘ法理上政府ヲ通シテ行フトキハ憲法上ノ
事件ニ依リ故ニ政府ハ大臣ノ行使ヲ奏スルトキハ例ヘ天皇ノ命令ヲ発
スルハ大臣カ之ヲ閣議ニ命令ヲ発シ大臣ニ之ヲ奉
行スルニ於テハ大臣カ君主ノ勅令ヲ閣議ニ付シ写ヲ生カシ文
ヲ写シ取ルカ如キ郵便機関ノ如キ憲法

ハ山脈ニ連ル高地ニシテ其間ニ無数ノ谷ヲ生ジ谷ハ多クハ東西ニ走リ
本流ニ注ク支流ハ山脈ノ傾斜ニ沿フテ流レ谷ノ間ニ山脈ノ横ハリタル
ト同ジク其流路ハ屈曲シテ一定セス

第七章　國務大臣及樞密顧問

國務大臣ハ大權ノ行動ヲ輔弼スル最高ノ官府ナリ樞密顧問ハ大權ノ行動ニ關シテ意見ヲ奏シ最高ノ顧問府ナリ此二者カ憲法上機關トシテ大權輔弼ノ憲法ニ國務大臣トシテ一人ニテモ行フカ數人ニヨルカトニツノ憲法ノ立場ニ限定セサル所ニ憲法ノ特徴ヲ見ルヘシ文ニ人ニテモ可ナリトセハ合議体ノ制度ヲ採ルヘキカ如キ憲法ノ法文解釈トシテハ定ムヘカラサル問題ナリ仮令独立帝國ノ如キ我邦ノ大政大臣ノ制度ノ如ク獨立ノ國務大臣ニテ二人以上ノ國務大臣ナキ制度ヲ採ルモ憲法ノ法文ニ違反スルトキハ難シ又立法政府ノ數多ノ大臣カ合議体ヲ為シ所謂内閣制ヲ組成シ連帯責任ヲ負フ制度ハ憲法ノ法文上ニハ之ヲ禁ストシテ

モセス又之ヲ違法トモセス例ハ内閣トシテ文字ハ憲法ニハ見ヘス國務大臣ヲ見ルノミニテ大臣カ大權ヲ輔弼スルニ外ナラス内閣カ輔弼スルニ外ナラス内閣トシテハ憲法上ノ官府ニ非ス外ナリ然レ大權ヲ以テ内閣官制ヲ定メ國務大臣カ合議シテ憲法上ノ職務ヲ尽サシムルハ別ニ違憲ナリトシテ批難スヘキ点ナシ内閣トシテ制度ヲ通俗ニ憲法上ノ制度ナルカ如キ誤解スルモノナレトモ故ニ注意ス、又通俗ニ國務大臣ト行政大臣トヲ混同スル者ナレトモ之ハ文部大臣好務大臣等ハ即チ國務大臣ナリト雖モ教育行政又ハ財政内政トシテカ如キハ大權ノ行使ニ外ニ憲法上ノ國務大臣ノ職務ニ外ナラス行政ノ大臣カ我現行官制ニテ同時ニ國務大臣ナルカ如キハ全ク偶然ナリ行政ノ大臣カ同一人ニテ職ニアルモ官制ニテ斯クスルカ故ナリ憲法ノ必然ノ結果ニ非ス此点ハ憲法義解ノ説明ハ大ニ不穏当ニシテ國務大臣ハ内閣ニ入リテハ大權ノ輔翼ニ好ニアリテハ行政一般ノ事務ヲ採ルニ

帝、聞こしめして、かの国に使ひを遣はさむとおぼしめしけるに、富士の山といふ名のいはれ、なほ聞こしめさむと、
かの国の人に問ひたまふ。翁、答へて奏すやう、「この国の人、申し伝へていはく、「駿河の国と
甲斐の国とにまたがりたる山なり。その国の人、近く仕へまつるなり。」と奏す。翁、申すやう、「この
山の様、天に近く、高さ、人、国に比ぶるに、八分の一なり。なほ、この山、天竺・震旦にも聞こえ
あがりて、かの国の人、これを見ざるところ、なほ、遠くまで、あやしび、思ふ。この山のいただきの様、
平らかにして、なほ、不死の薬の名、この山、なぞらへ、思ふ。ここに、かの国の人、帝に奏すやう、
「この薬、たてまつる。かの山、焼やすべき。」とて、駿河の国、ある人、勅使、召しそへて、その山
に登りけるとぞ、伝へ聞こえ、その薬、焼やすべき。その煙、今、なほ、雲の中へ立ちのぼるとぞ、
聞こえ伝へたる。

本体ハ君主ニアリ大臣ハ行政權ノ負責ニ外ノ君主ヲ輔弼スルニ外ナラス
君主ニ違憲違法ノコトアル大臣ハ其責任ヲ負フコトヲ条理上免ル能ハス
Cor. Ibid. 議ノ意敬セス若カサルナリ
我憲法ハ君主ト大臣ノ干係ニ Cor. Ibid. ニテ如キコトヲ正文ナキナリ
大權ハ君主ニ存シ大臣ハ君主ノ輔翼ヲ為シ官府ヲ設ケ君主
ニ代リテ行政ヲ行フ大臣カ責ヲ負フニ代リテ君主ニ代リテ大臣カ責任スルトキハ
我憲法ノ認メサル所ナリ大臣ハ輔弼ノ職務ヲ有シ其有司ノ職務ヲ全ク
アルハ君主ハ大臣ニ忠義戒スルアルニ依シ此外ニハ丸ラ政事ノ責任ハ文臣ニ
ヨルトスルニ法理上認メス独テ主ニ大臣論ト論結ヲ異ニスルニ能
隱ス独テ報知ノ議論ハ政治ノ主体ハ君主ニシテ大臣ハ君
主ヲ輔助スルニ外ナラス共ニ君主カ違憲違法ナル行為ニ代リテ君主
ノ責任ヲ負フトスル說明ナリ

君主ト大臣トノ干係ハ君主ニ絶対ニ權力ヲ有スルカ又ハ大臣カ絶
対ニ權力ヲ有シ君主ハ虛位ヲ擁スルトスルカ之ハ君主ト大臣トノ干係ハ
權力ヲ有スルカ如ク好ニアル可ラス而シテ我憲法ノ解釈ニ於テハ君主
カ絶対ノ權ヲ有シ且行使スルモノナリ大臣ハ之ヲ輔助スル迄ニ
ヨリ可ラス而シテ此輔助スル迄ニ
其激ニ独テ之レキハ陵昧ナルコトヲ免レス權力ハ君主ニ
アリトスルナラハ其責任ハ大臣ニ之ヲ負フコトヲ故ナリ
憲法第五章ニ大臣ハ其責ニ任スルコトヲ輔弼ノ責ニ任スル者ナリ
此君主ノ行為ニ付テハ責任ヲ負フ注意シテ既ニ分シ
大臣ノ責任ノ有無トスル民事ハ刑事上ノ責任ノ如ク或
法上責任ノ如ク孰レ所ノ君主ノ大權ノ行使スルトキハ大臣ハ之ニ対シテ
責任ヲ有スルヤ否ヤ之ヲ政体ハ大臣事政ノ政体ナリ

トスルヿ議ニ於テハ何トナレバ其責任ヲ存スル所ハ
敢テ政論トシテモ若シクハ丸ク責任ヲ有スルモノ大臣ト丸ク責
任ヲ有スルトスルモ敢テ差異ナシ其ナシ其責ヲ政ヲ壓スル時ハ大
臣自政ニ関スルヿハシ
國務大臣ハ大稙ノ行使ヲ輔弼シ法令命令勅令ニ副署シ保証者
ヨリ意思表示ニハ大臣ヲ経由セスハコレ公認ス
法令ニ付テ閣署式ヲ定ムル所ノ意思ヲ以テ
ヲ置ク前提トシテ同意ヲ要ス閣議ニ関スル法令ヲ以テ
閣署ハ閣議ニ立ツ解釈トシテ大臣ノ閣署ヲ有セサル法令ヲ以テ
得ル法令ヲ以テ大稙ハ君主ト大臣トノ答申シテ之ヲ有スル者ナリト見ル
也ト我憲法ニ於テハ無論斯ノ如キ論ヲ得ル閣署者ヲ要セスシテ唯法
律ノ閣署者ヲ以テ法令ニ付テ閣署者ヲ要スルヿハ法令ノ
閣署者ハ大臣ノ職務ニ付テ大臣ノ閣署者ヲ請求スル
自己ノ自由意思ニテ閣署スルヿハ義務ナリ稙利ハ則チ故ニ大臣ノ閣署ヲ拒ムヿヲ得
拒ムヿ稙アリヤ否ヤノ問題ニ付テハ議定シ登記又ハ公ノ証明書
ニ手続キヲ要スルヿアルヿハ登記ニ対スルヿ得ル故ニ
稙ノ識慮ニハ登記ハ要件トスル然レトモ登記官吏ハ物件ノ売買ノ当事者ト
則チ登記官吏ハ拒ムヿハ物件ノ売買ノ当事者ノ
ルヿハ職務トシテ正当ノ手続ヲ経テ登記ノ請求ヲ受ケタル時ハ
ナレトモ或ハ全ク適例ナラサル去レトモ時ハ自己ノ恐怖セラルヽ如キ或ハ法律
行為ノ成立ヲ或ハ手続ヲ要スルト規定スルモノ並ニ手続ヲ為スヿモノ拒ム
稙ヲ與ヘラルヿモノト概テ可ラス
閣署スルヿハ大臣ノ職務ナリ稙利ハ則チ故ニ大臣ノ閣署者ヲ請求スル
トスルヿハ大臣ノ閣署者ヲ拒ムヿヲ得ルヿ政論上
自己ノ自由意思ニテ閣署スルヿハ義務ナリ稙利ハ則チ故ニ大臣ノ閣署者ヲ拒ムヿヲ得

[illegible]

[illegible]

[illegible]

然ハサルヨリ天皇ハ其責ヲ負フヤ此場合ニ國務大臣ハ同書ニ
キヲ確然トシ憲法上又之ヲ負フヤ否ヤ疑シ実際ニ於テ同書
ナキハ之ヲ以テ國務ニ非スト解釈スルヤ故ニ普通ノ說明ト実
際ノ慣例ハ往々異ナル然レトモ余ハ大権ノ行使ハ凡テ國務ナリトス
ヨリ即チ說明法令ニ基キ其ハ凡テ同書ヲ要スルモノ
國務大臣ノ責任ハ輔弼ノ職務ニ対スルモノニシテ輔弼ノ行為ニ付テノ責任
ヲ普通何ノ官吏ヲ問ハス官吏トシテ故務ヲ行フニ付テハ唯ノ責任ヲ
負担セサルヲ自己ノ職務ヲ完フスルニ責任ナリ大臣ノ責任モ之ト異ナル
ヲ我邦ハ如此事ハ五法普通ノ官吏ノ責任ト同様ニ見做シテ說明スル
一通リノ說明ノ要スルハ普通ノ場合ニ異ナル解釈ハ行ハルヽ故ニ
大臣ノ責任ハ本主ノ行為ニ付テ責任ヲ有スルナリト說クモノアリ自己過
失ニ非ス本主ノ過失ニ付本主ニ代リテ責ヲ有スルモノナリト說クアリ之レ

独乙普者ノ多数ノ解釈ナリ此說明ハ其法ノ明文ニ此ノ如キ言ヒ現
ハサルヲ以テ論理ノ然何ヲ問ハス憲法ノ規定ナリトシテ此ノ說明スル得
ト雖モ憲法ニ於テ何等ノ明文モナキ場合ニハ如ノ解釈スヘキ理由ナシ
通常ノ責任ハ主ノ観念ニ過キサルノミナラス責任ハ其権限
ニ対スルノミナラス自己ノ行為ニ付テ責任アルモノニシテ他人ノ行為ニ付キ自己カ
責任ヲ負フヤ否ヤハ原因結果ノ連絡ナキニシテ法文ハ特ニ斯ノ命令ス
場合ノ如キ当然ニ生シ得ヘキ道理ナシ大権ノ行使ハ本主ノ権限ニアリ
大臣ノ権限ニアラス本主ノ行為ニ付テ大臣カ責任ヲ有スルトスルハ普通
責任論ノ系理ヲ以テ解スルヨリハ寧ロ主義論トシテモ唱フ又
憲法ニ既文アハ如何ニ要法ナルモ法ハ法ナルカ故ニ此斯說明スヘキ
憲法其明言ナキ場合ニ又主義論ニ訴ハ
論理ニ通セサルヨリ故ニ欧州諸國ノ憲法論ハ不都合ナル点

ハ別論トシテ除ク而我憲法上ノ理論ニ於テハ謂ヲ
其神聖ニシテ侵ス可カラサルトスルトキハ大臣ヲシテ君主ノ過失ニ代リテ責任
セシムルトキハ何ノ不条理ナル說明ヲ待タスシテ神聖ニシテ侵ス可カラスト其行
為ニ付テ法律ノ責ヲ負フヘキ人ヲ設ケサルヲ以テ責任ヲ除外シタルナリ
是法上責任ナシト明言シタル行為ニ白痴人カ代リテ其責任ヲ負フ
ハ前段ニ述ヘタル者ニシテ君主ハ其行為ニ付テ責任アリトスル
同シクナリ何ハ発狂人ハ他ノ如キ行為アリトスルモ其責任ナシトスル
ナラン何人カ之ニ代リテ責任ヲ負フヘシトスルモ道理ナシ若シ白痴人カ責任
アルナラハ精神錯乱ノ者ヲ聖者ニ責ムルモノカ其聖者ヲ怠リシニ起リ生
スルナリ即チ之聖者ノ不注意ニ白痴ノ過失ノ責ヲ
無責任ノ者ニ代リテ責任ヲ有スルトスルハ条理ニ適ス
ルヤ大臣ハ国会ニ対シテ責任アリト論スルモノアリ此特別ノ憲法上ノ論スヘキ

者ニシテ概ネ可ナルヲ得ス後ハ憲国ヲ
大臣ハ国会ニ対シテ責任ヲ有スト明言セサルヲ以テ憲法
ハ明文ニ通フ説ニシテ極メテ不当ナリ元保ハ同シ道理ニ基キ明言
セサル国ニ於テ大臣ハ国会ニ対シ責任アリトスルハ論理ニ反シ誤リ
ナリト断言シテ可ナリ我国カ未タ其法律制度ニ大臣ハ責任ヲ有スルヲ
認ムルニ至ラサル原因ハ一般ノ条理ニ於テ解スヘキナリ元ノ官吏ノ責任ハ其職
務ヲ命シタル人ニ対シテ有スルモノニシテ職務上ノ責任性質
ハ特ニ法律ノ命令ニ基キ特別ノ規則ヲ以テ定メサル限リ各行政官庁ヲ認メサル
有スルモノハ其聖者ニシテ官府ヲ以テ聖者ニシテ大臣ハ
主ニ其命令ニ従フ其命令ハ所職務ヲ行フ故ニ職務上責任ハ
主ニ対スルノ外ナシ人ハ是或ハ従フヘキ道理ナシ是法又ハ法律ニシテ大
臣ハ憲或ハ別所ノ別ニ設ケサル限リハ君主ニ対スルノ外ナシ

他責任ヲ問ヒ懲戒ヲ得キヲサシ徒ニ見ル大臣ノ責任ハ大臣ノ自己ノ職務ニ対シテ主ニ対シテ責任シテ責ヲ負フモノナリト断言スルヲ可ナリ

此説明ニ対シテモ前述ノ聞書ノ一ニ者ヲ正書シ解釈シタル独逸ノ教科書ニ盛ニ説ヲナスモノアリ大臣ハ君主ノ自己ヲ命令シ聞書ニ故ニ君主行為ハ即チ大臣ノ行為ト合致シ聞書ハ責ヲ負フナリトシテ大臣ハ責ヲ負フナリトシテ前回ニ述ベタル如ク聞書ノ性質ノ問題ニアリ議論カ今ヒトツ聞書者ハ君主ト大臣トカ合意約束シタル行為ニハ大臣カ自己ノ意思ニ反シタル同意ヲ与フルトキニ生ズベシ然レトモ我憲法ノ撮意ニ依ル君主義ニ可シ然法律ハ命令ヲ大臣カ不同意ナリトシテ聞書ヲ拒ム権利ナシ聞書ハ大臣ニ対シテノ義務ナリ聞書者ヲ為ス能ハサル大臣

職ヲ退ク外大臣ノ権利トシテ聞書ヲ拒ム権利ナシ故ニ聞書ハ同意ヲ表シタルトキニ始メテ聞書ニ成ル故ニ大臣ハ其聞書ニ同ストキニ論理意義ヲ解セサル意思等ヲ暖昧ニ説明ハ独逸ノ通説ニシテ君主ハ神聖ナルモノ如ク表面ニ唱ヘテ内実ハ君主ト国民ト違フ事ヲ目的トスルヲ以テ政論相混合シテ大臣ノ責任ヲ責ムル暖昧ニ解釈ヲ試ミタリ其学術論理ニ敏政治上ノ勢ニ屈服シタル相勢ノ契ナリトシテ好ナル仏国ノ一一一一一一一

憲政体論ハ大臣ノ責任ヲ論ズルニ付テモ通理明白ナル始メテ君主ハ無能力ナルヲ以テ行政ハ全ク政府ノ責ニ帰シ君主ノ権利ハ大臣ノ権利ナリトシテ君主ハ何事モ為ス能力ナシ大臣ハ政府ノ主体ナリ以テ政府ノ責任ハ君主ニ帰シ大臣ニアリトスル理論明白シテ解シ易シ独リ大臣責任論ハ上ニ可ナル根本政体ノ基本

我国憲法ノ独乙憲法ニ倣サルナリ
（大臣責任論ハ Ministerverantwortlichkeit ノ語ヲ用ヒタルモノニシテ其意義ハ Responsabilité ニ近シ）
大臣ハ如何ナル種類ノ事項ニ付テ責任ヲ有スヤ問題ハ或ハ種々ノ難解ヲ試ムルモノアレトモ我憲法ハ第五十五条ニ明ナリトスル主ノ輔弼ニ付テ責任ヲ負フヘキ輔弼ノ任ニアル者ハ一通常ノ議則ニハ民事刑事ノ責任ヲ負フヘシ
任ハ如何政事上ノ責任ハ如何トヲ論ズ
論ズルニ当リ第一憲法論トシテ必要ナル信ス憲法ノ明文ニ大臣ナルモノトテ刑事ノ責任ヲ免レシメ通理ナル民事上訴ヲ得ルヲ通理ナシ刑事民事ノ責任ヲ負フヘキ大臣モ亦通人モ同ジ異ナラス憲法ニ於テ大臣ノ責任トシテ掲ケタル論ハ必要ナル見ルヘシ

民事刑事ノ責任ハ此所ニテ別段ノ疑ヲ生ス
所謂責任論ハ漠然政事上トスルハ非ナリ前述説明スル所ニ於テ見ハ何ノ政事ニ対シテ孰レモ大臣ノ職務ヲ行ハシ就テ責ヲ負フ其職務トハ何ナリヤ憲法第五十三条ニ掲ケタル君主ノ輔弼ニ外ナラス故ニ輔弼ニ付テ責任アリト解スルハ一通俗ノ説ニシテ憲法文ニ明カ所ナリ
責任ヲ漠然ト解スルハ一通俗ノ説ニシテ憲法文ニ明カ所ナリ
又或ハ大臣ハ憲法違反ノ行為ニ付テ責任ヲ有スト解スルモノアリ之説ハ大ニ無論大臣ノ行為ハ憲法違反ナル時ハ責任ハ生シ憲法ニ明ナル規定
命令ニ及ヒ又君主ノ詔令ニ及ヒ其違反ノ責ヲ免レサルヲ憲法規定ニ対シテ責ヲ負フヘキ職務ヲ負フヘシト知ルヘシ故ニ大臣責任ハ憲法違反ノ行為ニ対スル責任ナリト解スルハ正当ナラス且輔弼ハ
ハ法律ノ問題ニ止マラサルヲ大臣ハ君主ノ法律顧問ニ就テ政務ヲ助ケテ

輔弼ノ後今憲法ニ違ハヽ法令ニ所前セヽトキハ大臣カ国家ノ目的ヲ誤リ
職務ヲ当然ニ行ハサルトキハ主ニ対シテ責ヲ負ハサルヿヲ主カ大権ヲ
行フニ付テハ法律ノ解釈ニ於テ政略上ノ点ニ於テ輔弼ニ職務アリ故ニ
法律上政略上共ニ職務ヲ誤ハサルトキハ主カ大臣ノ責ヲ負フヿ当然ナリ而
シテハ大臣ノ憲法違反ノ行為ニ付テハ責任ハ如何ニスヘキヤ失政ニ
ヲ以テ大臣ニ責任ヲ負フヿハ狭キニ失スヽ又
ハ憲法ノ責任トスルヿヲ正当ニ解セサル無用ノ説明ニ属スルヿ多シ
国教科書ニ説ク特ニ注意スヘシ
欧州ノ各国ハ政体ヲ改ムル故ニ大臣トスヘキモノナシ且封建時代ハ
大臣トスルハ奴隷ナリ但シ今日ノ如ク賤キモノニアラサリシナリ故ニ所謂
国ノ大臣ハ近キニ将師ナリキ右時ニ於テハイ士ノ職ニ至リ者カ
事政権ヲ握リ諸侯ヲ抑ヘリ其ノ才法ハ其奴隷ノ如キ者ニ託セル

大臣ヲシテ勢力ヲ振ハシメタルナリ之レ大臣ノ沿革ノ種類
ナリ
ヒロミキハ今日政権武門ニ帰シタル沿革ニ向テモ然リキ即チ三
諸侯ノ勢力ヲ抑ヘルニハ地位ノ者ヲ撰用セルナリ
欧州ニテハ官制ノ全未タ定マラサルニハ一つヽ国ナリ下リテ欧州ノ隋ニ帝国ヽ
於テモ置キ次第ニ各国ニモ模擬シテ置キタリ故ニ之ハ際
限ナシ（ローマ）時代ニテ其源ト見ルヘキナリ
大臣職ヲ辞スルヿハ自ナリトスヘキ
説明スルニ然ルニ今ノ之ヲ辞スルハ権利ナリトスヘシト欲スル必竟法令
若シ勅文ナシ唯大体ヨリ論スヘキニ大臣カ職ヲ抛棄スル権利
アリトセハ大臣ノ職務ナルモノハ恰モ個人ノ契約ト同シク何時ニテモ
辞スルヿヲ得ルヿ役所ニ至リ官吏ノ職ヲ辞スルハ辞スルヿハ

こしてその請願を許可し得ハ可ナリとす抛棄スルと雖ども主
若し之を許サンと欲ス職を去ル能ハサルヿ
又討論言稱強き然ハ丸テ人民ハ法律と定メタル場合ハ強制
的に其義務を負フヿトセリ兵役ノ如キハ強制的ナリ然と官吏
も亦之を強制スル得サルヿナシとナルトナラサルトハ人民ノ自由ナリ後
テ之を去ルモ又自由ナリ政府モ之を棄スルヿを得ヘキヿ即チ
人民ハ何時ニ官職を抛棄スル得ト一理アリ
然と雖も然ラハ政府ハ其職を免シテ罰スル得ヘシ但し今日実際
職を去ル者ノ書面に本こして其職を去ルヿを得し但し今日実際
取扱ハ之ト異ナルモノアリ故と余ハ官吏ハ自由ニ其職
を辞ノ以上ハ之を免ス之を去ルヿ能ハストセサル可ラス例ハ国
務大臣カ「時に総理職を去ル何ニ為ス職を去ル何ニ為ス」と雖も国務大臣ハ然ラ

其後如何ニシテ国務大臣ニ任命セラルカ又如何ニ内閣ヲ組
織スルヿを能ハサルヘシ
豈不都合ナラスヤ国務大臣ハ辞職ノ願ヲ出ス而主任ノ許
可スル迄ハ国務大臣ノ職ニアルモノトセサル可ラスト思フ然ハ
大ニ妨害を生ス可シ

枢密顧問ハ天皇ノ諮詢に答フル重要ノ事件議ス憲法上大権ヲ行
フ者ニ諮詢スル府ナリ大臣ト共ニ大権ノ行使に関シ其ニ而シテ大臣ハ
内ニアリテ補翼スル好尚好奇に対シテ大権ノ行使ヲ信ジ之ノ顧問ハ
専ラ内ニアリテ諮詢に答フル好法令ノ間違ヘルヿナキヿ職務ヲ
行フニ当テ間違ナキ為ナリ又憲法上ノ要件トシテハ凡テ大権ノ行使ハ大臣ヲ経
サルヿ法ト定ル枢密顧問に諮詢スル事ハ法令ニ定ル主ノ要件

認ムル場合及手續ヲ定ムルヲ諮詢スルコトナリ故ニ憲法ニハ枢密院官制ニ於テハ諮詢スト掲ケタリ枢密院官制ハ大權ヲ以テ之ヲ定ム故ニ枢密院ニ諮詢スベキヲ諮詢スベキヲ必要条件トサルコトハ憲法上ノ解釈ニ属スルコトヲ大權ニ定ムル所ナリ即チ枢密院官制ニ定ムル所ナリ例ヲ其官制ニ変更ハ憲法ノ改正ニ非ス故ニ憲法上ノ要件トシテ諮詢又ハ要件トシテ諮詢ノ制限的規定ナシ但シ現今ノ制定ハ現今官制ニ於テ枢密院顧問ノ制度ハ他ノ行政機関ト異ナリ可ナリ国務大臣ト共ニ大權ノ行使ニ關スルコトヲ大權及法律ニ基キテ人民ニ対シ法令ノ執行ヲ為ス行政府ト地位ヲ異ニスル故ニ憲法上ノ大權ニ關係ヲ掲ケタリ

欧州ノ制度ニ比較研究スルニ多クハ大臣ト顧問ヲ保ツ並ニ我制度ニ似タリ但憲法ニ顧問ニ関シテ別ニ定ムル所ナシ

顧問府ナキ為メ見立又ハ顧問府ノ名称ヲ表面ニ見サルコトアリ(中略)又ハ顧問ヲ設ケ諮詢ニ応ジ意見ヲ具シ政府ノ制度ヲ定メ事務ニ関スル

雖ども後ち自ら顧問中之を有司人員に撰ぶを特設必要なる所以なり
任じ行ふべき旨然るに事実上顧問府より其上部分なる国務大臣が
分離せざるべからざる所なり是故に顧問府如き
多数人会議体にては之に対峙すべき侯ざるべし
つまり他にて人民法の国文を国務大臣と認むるにて
我憲法上にては元来の制度を新に新官職を設けざる故に顧問
府と国務大臣とを表面上より区別し然れども実際上の憲法は殊更
異なれども誤解なかるべし我憲法の枢密院官制にても国務大臣は必
枢密院顧問官として会議に列し議決に加はる一般顧問官と雖
ども枢密院は枢密顧問官会議に所ると顧問官は唯だ大臣
陰きれる意味なれば国務大臣は職務上（ex officio）当然顧問官
まれる故なり故に其中間振合に顧問官と知るべし

枢密院は顧問府より顧問官と設訊官と設問官とを定めたり
君主が国の元老の意見を聞くの所にして其意見を採納するとは無論
設訊官とは君主の命令に基き稿を作成し君主の命令を枢
密院官制により定の国務大臣と設訊官と其会同に此と一々述べ
官制を見ること重要なる事項は好問に対する条約並に他の条約憲法
解釈は条件に代り勅令を以て重要なる国務を
設訊官とは枢密院官制に列記とのみ知るべし
枢密院は会議体の会議にて顧問官等独り意見を上奏するなり
枢密院は君主が親臨されて会議を開きて所謂の故
事実上君主は内閣会議にては列せずとも習慣法にて例は欧州諸国
枢密院は君主が親臨されて会議は御前会議
又は親臨とは開かれざる形式とす

丸ノ憲法ノ解釈ニテ義務憲法改正憲法ニ附帯ノ効力ヲ有ス
枢密院ニ諮詢シ其訓令ニ基キ枢密院官制ハ枢密院ニ諮詢スヘキモノナリ
枢密院官制ハ枢密院ニ諮詢スヘキ事項ヲ規定セリ故ニ其諮詢ヲ
ヘカラサル事項ニ属シ自由ナル意思ヲ以テ枢密院官
制変更シ枢密院ノ同意ヲ要スル事項ニハ必ス自由ナル
ヲ得サルヲリ
諮詢スルト答申ヲ聞クトハ並ニ此ハ法律上諮詢スヘキ事項ニ
諮詢スヘキコトヲ要スル事アリ憲法上大権ヲ行使スルニ必スヘキ
キ必要条件アルヲリ但シ之ヲ採ルト否トハ別問題ナリ

第八章 裁判所

裁判所ハ憲法上ノ統治機ヲ司法権ヲ行フ権限ヲ有スル裁判所ハ司
法権ノ主体ニ非ス天皇ノ名ニ於テ之ヲ行フナリ三権分立ノ政体ニテハ司法
権ハ裁判所ニテ行フトキハ此主義ヲ採ラサルヲリ故ニ唯一円満ナル統治権ノ
機ヲ二ニテ統治権ノ部ヲ有スルモノニ非サルヲリ
裁判所ハ憲法上機ヲ存廃ト其権限ハ憲法ニテ定ムルヲ大権
ヲ以テ之ヲ動カスヲ得ス又法律ヲ以テ之ヲ変更スルヲ許サヽ例ヘハ法律ヲ
以テ裁判所ヲ廃スルヲ許サヽルヲリ只此説明ニ付ハ裁判所構成法ニ
所謂ル判所トカフ文字ト憲法上ニモノトモ別ニシテ考フヘキ通俗ニハ
又構成法以下ノ法令ニテハ裁判所ノ構成法ニヨリテ判官カ其職務ヲ行

了事務所ヲ判所ト唱フルヲ例トスルモノハ東京地方裁判所トスルカ如キモノ又ハ東京大学ト云フ如キ一ノ事務所ヲ指スヲナリ官報告示ヲ廃止スル迄ハ此意味ニテ云フ裁判所ハ法律命令ニ或ハ之ヲ設ケ或ハ之ヲ廃スル迄ハ憲法ニ抵触セサル限リ裁判官ヲ任免スルカ如キ裁判官ヲ任免スル大権ナレハ裁判ヲ廃止シテ置カスト云フハ憲法ニ抵触スルト同シクシテ裁判所構成法ニ裁判所ヲ設置シ廃止スルハ法律ヲ以テスト掲ケタル裁判所其モノヲ廃スルヲ法律ニ訴ヘタルト雖サルヨリ裁判官ノ事務ヲ行フ場所ヲ建設シ又ハ廃止スルヲ云フ所謂裁判所ト云ハヽ之ニ属スル司法権ヲ行フ権限ノ主体ヲ指ヲナリ裁判官ヲ独家的ノ総称ニテ云フナリ此意味ニテ裁判所ト云フトキハ司法権ヲ行フ権限ヲ主体ト定メ或ハ之ヲ存廃スルヲ其権限ヲ増減スルハ憲法問題ナリ法令問題ニ非ス故ニ裁判所ハ憲法上ニ際テナリト説明スル裁判所構成法ニ

第二章

法律ニテ之ヲ設ケ其権限ヲ異ニスルモノナリト誤解ス

裁判所ハ天皇ノ名ニ於テ司法権ヲ行フ其名ニ於テトハ君主ノ名ニ於テ権ヲ行フ様ヲ示スナリ之ヲ立テ代理委任ノ普通ノ法理ナリト論ス可ラス形容ニテ云ヘハ君主カ司法権ヲ裁判所ニ委任シタリトスル説ヘハ仏国憲法ニ於ケル如ク裁判官ヲシテ司法権ヲ行使セシムルモノナリトスル民法上ノ法律論ニ強ヒテ人ハ動モスレハ此等ノ事柄ハ民法ノ法律ノ形式ヲ以テ公法ヲ論スルノ欠ナリ故ニ君主カ裁判所ニ司法権ヲ委任スト云フカ如キ説明スルヲ共和ト云フ委任ト云フ文字ノ為メニ法理ヲ誤解スル勿レ此誤解カ只我憲法論トシテ文字上ノ誤解ナレハ敢テ問ハス然ルニ文字ノ意義ノ如何ニ基ク理由アリテ之ヲ誤解ヲ強ヒテ恐レサル所ニ属スルカ故ノ司法裁判ノ事ハ

元来国家的職務ハ非サルヨリ社会的ノ安寧ノ事務ナリシヤ
恰モ神官僧侶カ人ノ生死祭祀ノヲ司ルカ如ク法律家トシテ一種階
級カモ判ノヲ借リシヨリ故ニ仏国ノ革命前ノ布達ニ司法権ハ
家ノ国務ノ事業ニ属スルトシテ政府ノ事然ニ有ル国権ノ働キ有
徴ヲ以テ前ニ説明シタル如キ事ノ観念ハ国ニ於テハ司法権ハ依今義
主国ノ主権ニ属スルトキハ之ヲ判所ニ委任シタルモノヤ議ノ渡シタルモ
ノヤリトスルカ如キ強キ観念アリ文武ノ官府カ安寧若クハ行政ノ事
ヲ司ドルハ一種異ナル手続ノ如ク我国ニハ如斯沿革的ノ
理由キナク故ニ尚更司法権ハ未タカ判所ニヨリテモノヲ行フモノナリ
ト解シテ可ナリ
カ判所ハ其権限トシテ司法権ヲ行フ事実上若シカ判所ニ通
シテ司法権ヲ行フヲ以テ仏国ノ情況ニ於テハ其高限ハ

国法ノ解釈ヲカ判所ノ決定ニ任セカ判所ノ独立ノ判断ニテ判決ヲ為
スカヲ以テ単ニ権限ハ補助ノ行為ニ対シテキツテ之ヲ他人ノ機ヲトシ
テヲ補助スルニ止マラシム自己ノ意思ノ決定ニテモヲ行フヲ得ル能カ
能国ノ権限ナリ此ニ所謂カ判所ノ独立トスル司法権ノ独立トスル対
別ニ深キ意味ナシ凡テ権限ヲ有スルハ独立ナリカ判所ハ自己ノ意
思ノ決定ニテ好評ノ指揮訓令ニ依ラスカ判官ヲ為スヲ得ル権
限カ其独立ナリ
試判所ヲ分ツ時ハ司法権ハ何ナルヲ知ラサルハ能ハス司
法権ハ何ヲハ指シテ詳述スヘシカ判所トキツ文字ハ仮リニ用ヒタルモ
ノニシテカ判所トスル者ハ皆悉クカ判所ニアラス司法権ノ
行使ヲ為ス所ハ即チカ判所ナリ
実法上カ判官トシテカ判所トシテモ異ナルナシ

此所ニ掲ケタル説明セラルベキ部分ハ既ニ述ベタリ

憲法上ノ機関トシテ三ノ分ケタル部所トシテ之ヲ行フ各官吏及

判官トシテ政府ト国務大臣トノ干係ノ如キモノナリ

第五編　統治権ノ作用

第一章　総論

大日本帝国ハ天皇之ヲ統治ス、統治ノ主体ト其客体ト及ト其機

関トノ三ハ已ニ屢々説明セリ此編ニ於テハ如何ニ統治セラルヽカノ形

式ヲ論ゼントスル統治者ハ天皇ナリ君主カ国土臣民ヲ統治スルニ於テ

如何ナル機関ヲ設クルカ如何ナル形式ニ於テスルカ此二者ノ問題カ

前編ノ此編トノ説明ナリ国ヲ統治スル権ト

称スル我邦ノ日本憲法ヲ説明スルニ際シテハ此等ノ語ニ意義

ヲ付セズ統治権即チ主権ナリト国権ナリト爾ク故ニ此ニ統治権ノ働キ

說明スル主權若クハ國權ノ働キヲ論ズル者ト知ルベシ

歐州ノ國法學ノ說明スルハ時トシテハ主權 souveraineté 或ハ Souveraineté 或ハ Souveraineté 國權 souveraineté 或ハ souveraineté 等ノ言語ニ付テ各異ナル意義ヲ方ニ云ヒ然ルニ其說ハ特殊ナル彼ノ國俗ニ基クカ又ハ他國ニ発達シタル三權分立論ノ誤解ニ出テタルカ等ノ理由ニ基クモノニシテ之ヲ我政俗ニ當テ嵌ムルヲ得ベカラザル如キ独乙帝國ノ如キ主權ト國權トヲ区別シ國權ヲ主權ニ訓ズルト抗ヲ何トセハ彼等ハ聯邦制度ニ數多ノ國カ聯合シテ大國家ヲ成シ主權ト聯邦ノ最高ノ權力トニテ國權トハ各國ノ有スル權力ナリ聯邦制度ニ於ケル我國ノ如キニ於テ独乙ノ如ク國權ト主權トヲ区別シ國權ヲ適用シ得ルカハ論ヲ俟タサルナリ又独乙國法ニ論ジ中ニ於テ國權トハ說明スル權トヲ区別シタルモノ多シ其趣意ハ國主權ハ國

家國体ニアリ國權ヲ分チテ立法司法及行政ノ三ノ權トシ君主ハ行政權ヲ有スルモノニシテ行政トキハ此意味ニ於キテハ立法司法以外ノ國ヲ說明スル權力ヲ含ム此權力ヲ特ニ君主ノ政說ニハ權トキヘバ日本ノ得タル譯ニシテ往々說明權トシテ文字ヲ用ヒ譯譯ノ文字ハ如何ナル性質ノ國法論ノ所謂 Souveraineté ハ我憲法學ノ條ノ所ノ國ヲ說明スルトキハ說明リ狹ク我憲法ニテハ天皇ハ帝國ヲ統說スルトキハハ立法司法ノ二ヲ除キテ其代ノ權力ヲ指スニアラズ丸テ國權ノ働キヲ概括シテ云フモノ故ニ我憲法ノ觀念トシテハ統說權ハ即チ國權ノ主權ナリト知ルベシ

國ヲ說ムル所ノ權力ノ全体ヲ特ニ訳シテ說明セントスル時ハ此等ノ說說トシテ意義ハ已ニ說論ノ部ニ於テ說明シタルモノニ其說ハ行政ト云フベキ說說ニ對スル說說

権力ニ係サリシ方ハ人ノ意思ヲ抑圧シ自由ヲ強束シ
テ権力ニ服従アルヤウニ権力ニ係ル臣民ニ而ハ権
力ニ係ハ公法全体ニ通シテ見レハ必シモ国家ト臣民トノ関
係ノミニアラス封建時代ニハ豪族ト平民トノ間ニモアリ又ハ親子
間ニモ主人ト家来ノ間ニモアリ然シ近世ノ国家ハ其臣民ニ対シ
テ絶対ノ権力ヲ有スル国家ト雖モ私人トノ間ノ権力ニ係ル特ニ
付テハ法律トシテハ法律ト好シ深キ意味アルニアラス権力ヲ
以テ隔ツルヲ意味スルナリ
法律ハ主動力ヲ有シ法律ハ威力ナリ
法律ハ絶対ニシテ唯一ナリ円満ニシテ今無ニカラサルヲ又前ニ
説明セシ法律ハ権ヲ以テ権ヲ制スル権力ノ集合ニシテ円
満ナル権力ノ総ヲ以テ有様ヲ以テ此点ニ対シテハ政

治体ノ沿革ノ如何ニヨリテ観念ヲ異ニシ欧州ノ中世紀ニ於テ封建
ニ於テ近世ノ国家ニ移ル間ノ時代ヲ研究シ円満ナル
法律ハ又ハ国権トシテ権力ナシ君主ト臣民トノ干係ヲ捨テ普
通ノ人トノ如ク対的ノ干係ニ如ク見做シ君主ハ権ヲ有ス
間ハ狂暴ヲ取ル権ヲ制シ難キ権ト雖モ如ク権ヲ有ス
別ヲナル特権ヲ有シ円満ナル国権トシテ丸テ全ク大権ヲ有シ
又ハ多ク付テ世子者ハ特権時代ト称シ現今ノ国家的観念ハ
之ニ反シテ国家ノ権力ハ国王及臣民ニ対シ絶対円満ノ力ナリト
観察シ故ニ租税ヲ取ルモ又判ラスシモ別ニ租税権ヲ判権トシテ
如キ別ヲノ権力アルニアラス国権ハ此等ノ事項ニ対シ働ノ者ト見
做シ之ヲ即チ我憲法ニ於ケル法律ノ観念ナリ
法律権ハ絶対円満ナル権力ナルカ故ニ之ヲ其目的物ニ付テ其働ヲ

区別されうる得る例に従い統治權の働を計り定めんとするに当り如何なる統治權が働くべき目的実質に就て之を区別されるべきかは性質のものなり何事をも得んが故に統治權は斯くの如き分類の制限を受くるを得べからざるなり故に統治權の作用を論ずるに当り如何なる統治權の別記を為し得べからざるかの問題を研究せざれば如何なる統治權が働くべきかの形式を論ずるに止まるのみ何の為めに統治權が働くべきかの目的の論なり何を統治權なるかは其実質の論なり如何なる統治權なるかとは形式論なり憲法は国家の目的を定むるに其形式を論ずるに即ち政体を説明するに統治權の作用を形式の為めに分類するの方法なるべし其実何の目的の為めに其作用を分類するかの問題は学説研究の方法の問題とも必ず

一定不動の形式に分類せざる各国の政体を通じて同じからざるなり我邦事情に於ては所謂我現行憲法を以て憲法上の分類に基き此を標準として外国の憲法を分析し又現行憲法の解釈上に於ては憲法の種類を分析し公法の理論上に於ては民事刑事の区別を為すべきは勿論我憲法の規定を説明するに当り統治權の作用を分ち憲法上の大権及び立法司法行政の三分類とし(国家の意思を発表するを立法と云ふ)統治權の国家の作用を分類するに付ては欧州に行はるる所謂三權分立主義の精神を能く了解するを要する此主義は仏国の学説に基き欧州諸国の政体変更の原因をなしたるを以て一般に知られ通り此主義は其大体の精神に於ては動かざる可からざる事理を含む者なり故に近世の憲政体の基礎をなすものと仏国人は之を唱へ

八学説及政論トシテハ全ク本末ノ性質ヲ誤解シテ甚タシキ欧米諸国ノ文ヲ引キテ我国ニモ其流弊アリ事竟ニ[illegible]
Faiers氏等学者カ之ヲ誤解シテ誤リタル説既ニ倩ヒタル基
リナリ前ニモ述ヘタカ如ク封建ノ度ヲ経ヘタル王室政ノ時代ニ
ハ所謂権限ト云フ説ノ盛ナリシ国ノ代表スル能力ヲ兼ヘタル軌
国ノ意味ニシテ権限ハ盛ナリシ偏ニ権力ハ流政ノ主体ニ属シ矢
皇権カヲ有シ権限ヲ有セス権力ヲ有セシ代ハ権限ヲ有スルニ
セス流政盛ナハ憲法ニテ典ニ[illegible]ルノ職務ヲ自己ノ権限トシ
テ行フモノナリ此意味ニテ三権分立トハ立法司法行政ノ権限ヲ分割
セラルヽ意味ニアルモノニシテ換言スレハ之等ノ権限ハ同一機
関ニ存スヘキ可ラサル多数ナルヘシ分立ヘルトカラツナリ即チ我憲法モ
此趣意ヲ採リテ立法ニ于シテハ議会アリ司法ニ于シテハ裁判所
アリ行政ニ付テハ政府ノ行政官庁アリ各権限ヲ分ツノ趣意ト
見ルヘキ所謂三権ノ根本ノ趣意ハ同的ヲ達スルヤリ及之若シモ
立法司法ノ二ハ其ニ偏セテ国会ノ権限ニアリトシ又ハ立法ト行政ト
ハ其ニ偏セテ政府ノ権限ニアリトカラツナリ権限ヲ三分スルヤリ
相混ニシ三権分立ノ主義ト違ヒ又所謂主権政体ヲ為サル
ナリ

三権分立論ヲ一時ハ極端ニ流行セシメ一時ハ極端ニ排斥
シタリ偏ニ見ル所異ナレハ互ニ議論トナリテ互ニ誤解
ヲ来ストシテ論難スルナリ三権論ハ立憲政体ノ基礎
ナルハ疑ナキモノヽ如シ然ニ権力ヲ分割ナリトスルハ余
未タ信ズル能ハサル所ナリ世学者ヨリ又算ヘ分
担ナリトスルモノアリ然レトモ之ヲ分ツトスルハ未ヘ立憲政体ノ主

意ヲ尽ス能ハサルヲ得ス故ニ余ハ試ニ權
限ノ分割ノ目的ヲ三權論ノ本旨ナリト解スルナリ」
伯爾ノ著書中ニハ權力ヲ区別シタルニアラス權力ノ作用
ヲ区別シタリトスルモノアリ然レトモ明瞭ナラス
憲法ノ主ナル方ハ固有ノ円満唯一ナリ故ニ其作用モ唯一
ナリ其機関ニ或權限ヲ付シテ其權限ノ行ハレ遮キサ
ルヲ以テ他ノ見ハ立法權司法權アルカ如ク見ルナリ
水ノ流ノ中ニアリ潴ハ川ニナルモノ各異ナルヲ付シテ
異物ト見ルナリ然ルニ水ノ本質ニ於テ異ナルモノニアラス
ウヽ信説權ノ機関ヲ通シテ行ハルヽモ又然リ種々ノ
權力ノ如ク見ルハ其通シテ行ハルヽ機関ノ形ニヨリテ異
ナルナリ故ニ權力ハ唯一ナル權限ヲ分割シタル

第一ト見ルヲ可トス

第三章 憲法上ノ大權

憲法上ノ大權ハ天皇カ直ニ權限ヲ委任セラレ親裁
シテ行フ政務ニシテ議会ニ関スルモノヲ除キ憲法上ト云フハ憲法ニヨリテ定メラルヽ

ルモノナルヲ主意ト大權ト亦相ト同ジ故ニ其言葉ノ中ニ別ニ亦大權ト云フ詞ヲ用ヒテ之ヲ同權其言葉ノ中ニ別ニ亦大權ト云フ詞ヲ用ヒテ之ヲ同
法權ト憲法上ト云フ形容詞ヲ附シテ區別シテ殊更ニ憲法上ノ
主法權トキツカ如キ名稱ヲ必要トセズ憲法上ノ大權トキツテ自テモ必ズシモ
憲法上ト云フ形容詞ヲ必要トセズ然シ我君主ハ從從權ヲ從從權ト同時
ニ從從權ノ一部分タル大權ヲ行フ故ニ從從權ト大權トヲ別ニ行
ハヲ例ニ云ハズ憲法上ト云フ字ヲ大權ニ冠ラシテ可ナリ
大權ハ從從權ニ亦ニ同一物ニ亦ニ云フ字ヲ大權ハ本ヲ從從權
ノ一部分ナリ君主ハ已ニ從從權ノ全体ヲ有ス然ラハ何カ故ニ其一部
分タル大權ヲ有スト云ヒ又ハ懷ヲ入ルモ可ナリ
前章ニ述ヘタル如ク從從權ヲ行フニ當リテ從從權ノ援助ヲ設ケサル
一定ノ權限ヲ分配スルヲ主義政体ノ趣意タリ而テ從從權ノ權限

ヲ委任セラレタル君主ノ親戚スル政務ヲ代ノ者ニ別ニシテ大權ト云ヒ
ツヤリ主法司法權其從從權ト云ヒ別ニ別ニシテ大權ト云ヒ
憲法ノ規定ノ上ニ於テ勝手ヲ異ニスルモ理由ハ
ニテ我憲法ニ大權ノ制度ヲ設ケ
大權ノ制度ヲ歐州ノ制度ニ比較シテ考フルニ其各義ハ我ト同ジ
質ニ全ク異ナリ歐州ニ於テハ君主大權ノ制ニ二ノ原因ヨリ来ル封建
制ノ時代ニ於テハ特權若クハ高權(la abbeista alta)遺物ナリ民
主主義ノ主權論ニヨリ國民カ君主ニ與ヘタル權ニ基キ歐
州ノ封建時代ノ制度ニ於テ各國ノ君主ハ円満ナル主權ヲ有セズ特定
ノ特權(Prerogative)ヲ有セルニ各種ノ大權若クハ高權ト称セリ
普通ノ人權利ヲ侵リタル特權ヲ有スルモノト見做シタルヨリ安寧
ノ權租稅權外交權ト云フカ如キ此等ノ種々ノ權利ヲ合ス兼ネタル者カ

ドイツ国は世界大戦の結果として国土の三分の一を失ひ、海外植民地を全部喪ひ、軍備は極度に制限せられ、賠償金として巨額の金を連合国に支拂ふ義務を負ひ、その上に国内は政治的に分裂し、経済的に破滅に瀕してゐた。

ドイツ国は、ヴェルサイユ条約の第二百十五条に基いて、国際連盟の一員となる資格を有する国として、連盟に加入を申込んだ。

連盟は、ドイツ国の加入を認めるに当つて、ドイツ国が、その国内に、ユダヤ人、ポーランド人、ロシヤ人、ルーマニヤ人、チェコスロバキヤ人、ユーゴスラビヤ人、ハンガリヤ人、ブルガリヤ人、トルコ人、ギリシヤ人、アルバニヤ人、アルメニヤ人、ロシヤ人、ウクライナ人、ベラルーシ人、ジョージア人、アゼルバイジャン人、ユダヤ人、ロマ人、ジプシー

ｍｅｔｈｏｄｓ ｏｆ ｔｈｅｒｍｏｄｙｎａｍｉｃｓ ｔｏ ｔｈｅｓｅ ｐｒｏｂｌｅｍｓ ｉｎ ｔｈｅｒｍｏｄｙｎａｍｉｃｓ ｉｓ ｔｈｅ ｍｅｔｈｏｄ ｏｆ ｓｔａｔｉｓｔｉｃａｌ ｍｅｃｈａｎｉｃｓ．Ｔｈｅｓｅ ｍｅｔｈｏｄｓ ｈａｖｅ ｂｅｅｎ ｄｅｖｅｌｏｐｅｄ ｂｙ ｍａｎｙ ｐｅｏｐｌｅ ｉｎ ｔｈｅ ｌａｓｔ ｔｗｅｎｔｙ ｙｅａｒｓ．Ｔｈｅｙ ｈａｖｅ ｂｅｅｎ ｕｓｅｄ ｔｏ ｓｏｌｖｅ ｍａｎｙ ｐｒｏｂｌｅｍｓ ｉｎ ｅｎｇｉｎｅｅｒｉｎｇ ｔｈｅｒｍｏｄｙｎａｍｉｃｓ．Ｔｈｅｓｅ ｍｅｔｈｏｄｓ

[illegible]

[illegible]

憲法義解ハ大抵ハ憲法ノ列記ニ止ラスト雖ト注釈ヲ簡要ニシテ其旨意ヲ十分ニ解セラレタルモノトス或ハ此ニ述ヘタル精神ニ基キタルモナヘシ而シテ我新憲法ハ解釈スルヲ

日本憲法第一章ニ天皇ハ斯々ノ事ヲ為スト列記シ此ハ如何ナル意義ヲ有シテ規定シタルカ不明ナリ極端ニ云ヘハ日本憲法ハ伝説機関ヲ権限ヲ規定シタルニ過キス其天皇ノ資格ト如キハ殆ト不用ナリ然レトモ天皇章ヲ除ク故ニ解釈困難ナリ特ニ憲法義解ノ如キハ之ヲ憲法制定ノ精神ヲ説明シタルモノト見ルヘキ前篇ニ所多シ即チ主権ハ天皇ニ在リ其天皇ト雖ト分立ハ其ニ規定シタルモノハ好ハ之ヲ行フ能ハスト云ヘリ他ノ処ニハ天皇ノ大権ハ此所ニ列挙シタルモノハ好ニ之ヲ行フ能ハスト云ヘリ何ニ拠ルヘキカヲ知ラス我輩ハ天皇章ヲ示シタルモノハ天皇カ必ス親裁セサル可ラサルヲ

テ世ノ言ハ天皇ノ自由ナラサルモノナリ

第三章 立法權

立法權トハ法律ヲ立定スル政体ノ用語トシテ欧州ニ発達セル観念トシテハ二種ノ意アリ元来立法ハ国法ヲ立ル權力ヲ立法權トスル法律命令其他何等ノ名称ヲ以テ行フ

標準トスル法則ヲ制定スル力ヲ立法權トシテ分立シ其政
体ヲ辯ジテハ其好ノ形式的ノ意義アリ君主ト國會トノ意思ヲ合シテ発
表スル所ノ意思ノ表示ヲ法行為トシ此野心 Le bien-être de tout
ナリ君主ト國會トノ協同スル力ヲ立法權 pouvoir législatif
論ジ得ラルヘシ此精神ヲ正當ニ解釈スルヲ所謂三權分
ノ分ヲ而テ立法權ヲ最高ノ力トシ行政權ハ國ノ首長ノ專独ノ權力ニ属
シ司法權ハ法律ノ下ニアリテ法律ヲ解釈シ適用スル權力ヲ而立法權ハ
國ノ首長ト國會トノ共同ニ成セル力ナルカ故ニ國ノ首長專独ノ權力ヨリモ
強クシテ法律ノ下ニ働ク司法權ヨリモ強クシテ立法權ハ最高ノ力ヲ有ス
ナリ立法權ノ発動スル所ノ法律 Civil code ナルモノハ形容シテ解シ易ク言
ハ法律ヲ作ル力ヲ立法權ナリトスルトキハ之ヲ考カ主旨至
テ立法權ノ力ヲ立法ト云フ文字ニ拘ハラスシテ之ヲ解釈スレ
ハ三權分立ノ主義ニ基ク観念ヲ明瞭ニ解スルヲ能ハス政体
ノ主意ハ明カナラサルヘシ例ハ國會ト雖モ決議ナルモノハ其事柄ノ法則
設定スル法律行為ニテキマハ廣義ノ計算ニテキ狭ノ計算ニテキ人ヲ
任命スルニテモ國ニ功労アル人ニ謝辞ヲ述ルニテキ皆國會ノ決議ナリ之ヲ
法律ト称スルヲ得ルヤ此ノ世者例ハ Civil code ノ説明ニテ法律ト
屋質的ト形式的ニ二種ノ意味アリト称シ然レトモ法律ト云フ語ニ二種ノ意義
種ノ意義アリトスルヲ説明シテハ無意味ニ帰スルヲ得ルヤ語ニ二種ノ意義
アリトスル制ノ性質ヲ有スルモノハ法律ト称スル能ハス慣例ノ起源ヲ探リシハ三權分立ノ
主義ニ出テタルヤ明カナリ欧州ノ所謂立憲政体ハ到底三權分立論ノ根拠
ニ依ラサレハ解シ難カラサリ
公國ノ発達スル立憲ニテ立法ト云フ形式ニ立憲義ニテ立法ト云フ

即チ同会ノ決議ト同一ノ義ナリ

我憲法ニ立法権ト云ヒ行政権ト云ヒ裁判権ト云ヒ区別シ我政体ハ基キテ固有ノ現代文明ノ政体ニシテ欧州ノ憲政体ノ通用ニ倣ヒ用ヰルモノナレバ立法権ハ天皇ノ議会ノ協賛ヲ経テ行フ我政体ハ純然タル君主権ノ流ニ義ヲ固有ノ今ニ其権ヲ立法権ト云ハルル事ハ議会ノ協賛ヲ要スト云フ意味ニ過ギズ立法権ハ流出ノ権ニ働キナル流出権ハ夫レ自身ニ憲法ノ規定ニ由リ生ズルモノニシテ固有ニシテ独リ存在スル憲法ニ依ル者ハ即チ流出権ナリ何ヲ憲法ノ流出権ノ働キカ種々ノ名義形式ヲ有スル其ニトシテ立法権ト云フ観念アルヤリ前ニ大権ノ性質ニ付キ述ベタルカ如ク大権ハ流出権ナリカ今商ニ考ヘテ見ルニ大権ハ憲法上ノ大権ナリ憲法ノ規定ニ由リテ生ズル憲法ノ規定ニ由リテ生ズル憲法ノ規定ニシテ存在スル流出権ハ憲法ノ存在如何ニ拘ハラザルヤリト同ジク我憲法ニ立法権ト云ハ憲法上ノ憲法ノ規定ニ由リテ生シ其所文ニ由リテ

存在スル流出権ナリ其権限ノ手続ニ生ズル流出権ノ働ノ区別ニ大権及行政司法ノ働キニ区別シテ特ニ立法権ト云フ観念ヲ掲ケタルナリ立法権ハ議会ノ協賛ヲ経テ行フ（俗ニ大政ハ国務大臣ノ副署ヲ経テ行フカ如シ）立法ト云フ働ニテハ憲法上ノ要件トシテ議会ノ協賛ヲ必要トスルヤ我憲法ノ解釈ハ既ニ明ラカニ述ベタルカ如ク然ルニ立法権ト云フ特殊ノ権限ハ如何ノ理由ニ基ク乎ト問ヒテ即チ我政体ノ沿革ニ照シテ見ルニ其欧州ノ憲政体ノ模倣ニ過ギズ而シテ附会スルハ欧州ノ憲政体ノ根本ノ思想ニ基ク立論ノ観念ニ知ラズ知ラズノ間ニ憲法起ル権ト云ヒ並ニ三権分立ノ観念ニ盛ル立法権ノ起源ヲ君主ト国会トノ協同ニテ之ヲ行フトスル立法権ハ議会ニテ君主ノ同意ヲ得テ之ヲ行フ（又ハ立法権ハ議会ノ権限ニ属スルヤリ君主ノ同意ヲ有スト説クカ如キ説ハ誤リ

君主ト国会トノ意思ノ合同スルトキハ即チ意思カ合同スルトキハ可ナリ然ルニ其意思カ合同スルトキハ即チ解スルハ民法ノ狭隘ナル法理論ノ偏見ニシテ公法ノ観念ヲ

知ラサル辯論トキヽヘシ私法ノ範圍ニ於テハ各人平等トシテ法律ノ前
提トスル平等ニテ独立ナル二人ノ独立ノ意思ノ合致ナリ各意
ナリトシ二私法的法理ヲ適用セシ得ヘシ契約ハ二人以上ノ意思ノ合致ナリト定
義スル私法ノ範圍内ニハ適用スル所ニシテ公法ニ対シテハ此論ヲ得
ス権力ト係ル所ハ一ノ意思ト他ノ意思トノ平等対等ノ値ヲ有セサル即
チ権力ト係ル所ハ行政ニ権力者ノ服從者ノ下ニ意ヲ聞キ或ハ命令ヲ行フヨリ
トノ意思ハ同一ナリトスルモ其ハ下ハ敬キモ私法論者所謂合意契約ニ
ハ新カラス天皇カ國会ノ意見ヲ聞キ其可ト認所ヲ裁可ト云ヒ而シ
テ其効力ナリトスルモ合意ナリトスルカ私法的ノ觀察ヲ以テ権ニヲ得ス此
法理ニヨリ即チ人民ハ君主ト國会トカ合意シタルモノナルカ故ニ効果ノ性
質ナリトスル又同意ノ合致ニシテ人民カ殺ス君主ト國会トカ同一ノ対等ニ入ニシ立
法権ヲ共有シトスルカ如キ論ヲ生ス此私法的ノ觀念ニ基ク誤ナリト

知ルヘシ立法権ハ君主カ國会ノ意見ヲ聞キ其同意ヲ得テ裁可
シテ行フモノナリ元併立法権ハ君主ト國会トノ共有ニ在ラス権力ニ属スル
権力ニ属スル条理明白ナリト信ス
抑其字ヲ何ト用ユルモ其義ハ権力ヲ孫ハンヲ忘レ可ラス
民法上ニ法理ハ容ニ難キ君主ト國会ト同意セサルハ法律ヲ作ル
能ハサル故ニ立法権ハ君主ト國会ト共有ストスルハ民法的ノ法理ナリ
即チ又ハ皆独立対等ノ間ニ於テ行ハレ権力ヲ係ル人間ノ値
異ナル所ニ基キテ論ス可ラス
立法権トキハ権利ニ外ナラス権力ナリ寧ロ権力ト云ハ法
学ノ行動ニ形式ナリトスヘシ蓋シ権利トスル觀念ハ敢テ國
権ノ行動ニハ力ナリ然ルニ欧州數科書ニ強ヒテ之ヲ権利ノ如ク説明セリ
然レトモ権ハ同一視セサル所公式ニ権利ノ如ク常徴トシテ立法権ハ君主ニ

トリトスルコトヲ我輩ノ如ク主張スル力ガ君主ニ存スルトキニ於キマシテハ立法ニ於テ權利ガ君主ニ存スルトキニ於キマシテハ立法權ヲ論ズルモノナレトモ之ヲ誤リナリ權利ハ二種ノ利益トシテ觀念ヲ含ム君主ノ權利トキハ君主ノ利益ノ爲メニ之ヲ有スルカ如ク國土ノ權利ハ都合ノ爲メニ之ヲ有スルカ如ク國土ハ他ノ者ヲ撥除シテ自己ニ專有スル義ヲ含ム立法ニ於ル力ハ斯ノ如キ意味ヲ含ムモノニアラス君主カ憲法ノ規定ニ從ヒテ國會ノ協賛ヲ經テ行フ國權ハ之ヲ國ヲ統治スル目的ノ爲メニ存スルモノニシテ權利ノ如ク論スルハ誤リナリ此說明ハ我輩ノ主張ニ同カラサルノ理由アリテ仏國又ハ独逸ニテ辯セラルヽハ我邦事カ立法權トシテ權力ノ權ニアラス独逸ノ書ニ君主ハ Legeb Jeizmgebend 權ヲ有ス仏國ニ於テハ Le droit de changer ou abroger les lois 即チ我輩ノ Legeb Jeizmgebend 又ハ Gesetzgebung ノ義ニ於テ Gesetz ニ有スルトキハ

我憲法ニ於テハ立法權トシテ辯ハ法律ヲ制定スル力ヲ謂フト解スルコトヲ得ル立法權ハ公法ニ於テハ法律ヲ制定スル力ヲ立法權トシテ此權力ヲ基ク政府ニ於テハ法律トシテ名稱ヲ與ヘテ立法權トシテ主ヨリ故ニ立法權ノ働キヲ法律トシテ我憲法ニ精神ハ之ニ対セリ何トナレハ三權分立ノ主義ニ基キ立法權トシテ法律カ主ヨリ法律ヲ制定スル力ヲ立法權トシテ此所謂ヲ明ニスヘシ法律トハ國家ノ意思ヲ特ニ法律トシテ名稱ヲ與ヘタル所ノ法則ノ義ニシテ國家ノ意思ヲ特ニ法律トシテ名稱ヲ與ヘタル所ノ法則ノ義ニシテ國家ノ意思ヲ表示ト区別スルカ爲メニ法律ト何ヲカ云フヤ詳述セシ法律ト稱スル一種ノ形式ヲ備ヘタル國家ノ意思ノ表示ヲ云フニ過ギス故ニ立法權ハ議會ノ協賛ヲ要ス故ニ立法權ノ明文アリ憲法第五條第三十七條第五條ニ於テ議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フトアリ第三十七條ニハ法律ハ議會ノ協賛ヲ要スト掲ケ此二條文ハ無用ニシテ重複セリトスル此詩屋ヲ聞ク

所ナリ然レトモ第五条ニ於テハ大權ト法律トを区別シ權力ノ分配ノ点ヨリセヲ第三十七条ニ立法ノ実質ヲ問今權限ノ点ヨリセヲ規定セリ集法ニハ無用ノ法文ヲ各規定スル所ノ主ノ点ヲ異ニスルナリ

第四章 法律

天皇ノ議会ノ協賛ヲ以テ裁可シテ公布スル成文ノ法則ヲ法律ト称スヲ集法上ノ法律ノ意義トスル法律ノ論スルハ並ニ実質ノ説ノモノト形式ノ説ヲ出ダシテ於テ観察ヲ異ニセリ欧州ノ国法学ノ観念ニ於テハ法律

Gesetz トハ信義ノ立法ノ意義ヲ有シ孫ニ習慣法ノ用ヒテ国家ノ制定スル成文律ヲ称スル語ヲ用ヒシ立憲政体ノ制定以降ヨリ始メテ意義ヲ制ス習慣ヲ本ト普通国法ノ外ニ君主政府ヲ人民ニ対シテ公布スル所ノ成文法ヲ法律ト称シ然レトモ立憲政体ノ起テ於テハ法律トハ特ニ国権ノ用ヒシ詔令ノ称号ヲ経テ制定セラルル所ノ法律ノ意味ニスルコトナリ此等ノ法律及命令若クハ Verordnung ノ普国法論ノ法律ノ解ノ大要ヲ示セリ今時ノ有ル国ノ法ニ述ベ矣ニ照シテ

仏国ノ立憲政体ノ特別ナル権論ノ憲法ニ於テハ法律ノ観念其実質ノ法則ナルトヲ問ハス国会ト君主トノ同意ニ成ルヲ以テ称ス

於茲乎来ノ法律ノ意義ヲ盗ミ変更セシメ故ニ現今ノ有様ニテハ法律トハ何ナリヤトスル如キ概括的説明ヲ得ヘカラス各其国ノ特別ノ憲法ノ

解釈トシテ其意味ヲ決スルノ外ナシ此ニ述ベタル法律ニ意義ハ我基本ノ意義ヲ忘ルヲ得ズ

而シテ国家カ其意思ヲ表示スルニハ種々ノ形式アリ得ベシ其一トシテ法律ヲ以テ表示スルコトアリ法律ノ要件ハ国家ノ意思ナリ其形式ハ議会ノ協賛ヲ経テ我国家ノ意思ト為シ之ニ命令モ之ニ布シタル成文ノ意思ノ表示ナリ国家カ種々ノ機関ヲ設ケテ之ニ命令モ処分モ其他同ジ然ト国家カ種々ノ機関ヲ設ケテ之ニ意思ノ表示ヲ故ニ事実上ニ方ツ機関ニ分ル意思ノ表示カ代ル機関ニ抵触シタルトキハ其間錯雑ヲ防ク為ニ或ル機関ヨリ或ハ形式ヲ越エテ或ル名称ヲ付シテ代表者ト為シ之ニ代ル法律命令処分其ノ形式ノ異ナルニ従テ其形式ノ効力ヲ定ム而シテ相互ノ間ノ混雑ヲ防ク為ニ法律ト命令トヲ別ツモノ所以ハ此理ニ出ツ法律ハ天皇ノ命ニ所ノ表ハ国家ノ意思ノ表発ナリ表主ト

国会ト国家ノ意思ノ合同セルモノト見做セル内部ニ於ケル事実ヲ言フ者ニシテ好部ニ対シテハ主務省ノ命令タリ此内部ノ事実ト好部ニ対シテ法律ト係ルヲ明ニ区別スル最モ必要ナリトス例ヘハ会社ノ代表者カ好部ニ対シテ契約ヲナスニハ株主ノ総会ノ決議ニ依ラサル可カラサル規定アリトスルモ会社ト好部トノ干係ニ於テハ会社法人其人ヲ指テ云フモノトシテ総会ト代表者トノ合同ノ意思ナリトシテ認ムル必要ナシ故ニ法律ハ議会ノ協賛ヲ必要トスルモノ特ニ法律ニ制定セルモノハ主権者ナリトスルモノ即チ又欧州ノ主義政体ノ学説ハ法律ハ国家ノ意思ナリ命令ハ主権者ノ意思ナリトスル法令ノ区別ヲ制定シタルヲ発布スル人ノ区別ト観察スル例ハ[illegible]法令論ハ命令ニ基ク者ニ基ク者ニ於テ我国ノ憲法論トナスヲ可ナリ法律モ命令モ行政処分モ判所判決モ国家ノ意思ナリ法律ハ国家ノ意思ニテ命令其他ハ国家

憲法ノ所ニテハ全ク國法論ノ根拠ト齟齬シ我憲法ノ
解釈ニ適セサルヲイフヲ以テ國法論ノ観念ニテハ
者ハ政治論ト國法論トノ区別ヲ混淆シ理由ヲ示サスシテ漠然人民或ハ代
表ス國会ヲ國家ト見做シ依ル誤解ナリトカ免レ難所謂民主
國ノ制度ニ於テモ法律ニ命令ト勅令トノ区別アルヲ以テ明ニ之ヲ区別スルヲ得
敢テ之ヲ大家ノ説ノ所然ルヲ断ス命令ノ区別ハ意義其者ノ区別ニ外ナラス之ヲ発スル人ノ区別ニアラス意義表
示スル形式ノ区別ニ過ギス我邦ニテモ明ニ之ヲ表示スルモアリ
上ニ示ス通リ其事動ニスルモアル其理由ハ意義表示ノ形
式ヲ如上其事ニ注意ヲ注ク者ハ自己ノ意義ヲ発表スル
ナリ
欧州ノ憲法ト我憲法ノ異ナル点ニ関シ注意ヲ要スル者ハ法律ノ議

会ト共ニ主トカ憲法ノ規定ノ下ニ於テ立法ノ発表スル法則ナリト
ヲ以テ我憲法ノ観念ニテハ法律ハ憲法ノ下ニ制定セラルヘキ然ルニ英仏独
教科書ニテハ法律ハ憲法ノ上ニアルカ如ク論スル大ナル差異ナリ法律ハ憲法ヲ
変更スルヲ得ルモ我國法ニテハ欧州諸國ニテハ法律ハ立テ國家最高意
思ナリト定義ス教科書ハ定義ナリスト実際ニ於テモ憲法ハ法律
ヨリモ尊ク憲法ハ格式民法商法訴訟法ニアラサルカ如キ名称ト下ニ視ルヲ
或法律ノ条件ナリ実質ヨリ示ス法律ノ題号ナリト見做ス憲法モ固ヨリ法律ナ
リトスルモ大ナル彼我ノ区別ニテ正ニ通ルキハ我憲法ノ性質ヲ誘引シ恐ラク
我憲法実質的ニ憲法タルヘキモノトスルモ形式的ニ憲法タリ其会ノ所規定ハ
寡大ナル政治ノ事則ヲ定ムルモノトスル実質ナルヘキモノトスル形式特ニ
法律ヨリ区別セラレタル効力ヲ有スル法律ハ國家最高ノ意思ニアラス
憲法ハ國家最高ノ法則ナリ法律ハ於テ憲法ヲ変更スルヲ許サル

歐州三ハ一般ニ法律ヲ國家最高ノ命令トシ其変更ニ外ハ方能ハサルモノナリト信ズルナリ然レトモ其ハ憲法ニ対スル臣民的ノ義務トシテ矯正セサル可ラス我憲法ハ神聖ニシテ萬古不易ナルヲ期シテ無限ニ亘大ナリトス政治上然リ又法理上ニハ法律ヲ以テ憲法ヲ変更スルヲ得ト命令シタル能事定ニシテ変更スル得ス命令ヲ以テ法律ヲ変更スルヲ得ト雖モ憲法ヲ以テ法律ヲ変更スルヲ得ト雖モ憲法ハ法律ト異ナリ故ニ憲法違反ノ法則トハ歐州ニ考ヘテ国会ト政府トハ意ニ之レハ最モ強力ナリトセリ故ニ憲法律トハ其効力ニ保ナル歐州ニテハ国会カ憲法ニ違反ハルヲ考ヘルヲ能ハサルナリ昔ニ我国ニテハ天皇謀反トヲフアリ此等ハ

日本人ノ考ヘトシテハ解スルヲ可ラス此ト同シク国会カ憲法ニ違反スルトスルコトハ歐州人ニ解スル能ハサルナリ

英ハ Common law ナルヲ以テ Judicial amert ハ憲法ニ違反スルヲナキヲ知ル此点ハ論理上ニハ憲法ヲ正當ニ解釈スル国民的教育トシテモ深ク考ヘルヘキモノトス

法律ハ憲法ノ規定ニヨリテ発布セラル国家ノ意思ヲ定ムル法律ハ大權ノ外ニ於テ制定セラル者ナル他ノ形式ニヨリテ制限セラル即チ法律ト主権トノ区別ハ前ニ説明セリ二者ノ意味ニハ法律上ノ大權ト立法權トハ立法權ト立法行政ニテ侵サル其区域トシ他方ヲ軽ンスル区別ナシ大權ノ即チ憲法ノ力ナリ憲法ハ法律ノ上ニアリ故ニ法律ヲ以テ大權ヲ侵スヲ防ク力アルナリ之前ニ述ヘタル憲法ト法律トノ区別ヨリ出ル論結ナリ歐州ノ憲法ニテハ法律ト憲法ヲ区別セサルカ故ニ其結

果ハ大権ト立法権トノ区別ナシ法律ヲ以テ大権ヲ侵スヲ可ラストスルコトハ我憲法ニ於テ特ニ明白ナル所ナリ大権ト立法権ハ我憲法明文ニ基キテ其下ニアルモノニシテ憲法カ双方ノモノヲ某等ノ故ニ此書各権限ヲ守リ相侵スヲ防ク得ルカラ法律ヲ以テ大権ヲ侵スヲ得ス又大権ヲ以テ法律ヲ侵スヲ許サス大権ハ定・政務ヲ親裁シ法律ハ又定ノ事項ヲ立法事項トス大権事項ハ立法事項カ別ニ並ヒ存シテ相侵サス之ヲ我憲法ノ規定ヨリ

法律ハ実質上形式トアルモノニシテ実質ハ法律ノ内容ヨリ形式ハ立法ノ手續ヨリ如何ナルコトヲ立法スルカハ政府ノ問題ニ属スルニ此ニ説明スル限リニアラス如何ナルコトヲ立法スヘキカハ憲法ノ範囲内ニ於テ議会ノ議決相俟テ之ヲ論セサルヲ得ス即チ憲法上ノ立法範囲ノ説明ヨリ然シ之ハ次ノ事項ニ述ヘントスル形式ノ問題ニシテ何ノ立法ニカノ説明ヨリ此立法事項ノ概要説明スルハ二ノ時期ヲ経ニ若クヘシ

一、法律案ノ確定ハ法律ノ制定ヨリ之ヲ区別シテ附加シテ述フ可シ

法律案ノ確定ハ何ヲ法律トスルカ実質ノ確定ヨリ議会ノ議決相俟テ有スル法律案ノ確定ニ対スルモノニシテ止スル議会ハ立法ニ参与スルモノニシテ憲法ノ法律トシテ裁可スルモノニシテ漸ヤ大権ニ事属ス唯タ法律案ニ対シテハ可否スル権アルノミ法律案ヲ提出スルハ政府及貴族院衆議院ノ三者トス議員又ハ人ハ法律案ヲ提出スル権限ヲ有セス法律ニ反スルハ何人ハ手ヲ下スヲ憲法ノ間ノ所ニ於テ議員又ハ人モ為シ得ハサリ唯吉モ後人モ為シ得ルカリ保ニ憲法上ノ提出権ハ政府カ貴族院カ衆議院ニシカ之ヲ用フ議員其ヲ提出スルトキハ之ヲ通常提出トス又ハ提出スルヲ請求スル且議ヲ提出トハ憲法上全ク同シカラス

又法律案ノ提出権政府両議院共同ニ之権限ヲ有ス政府ノ憲法ハ

猶多ク制限アリ我憲法ハ丸テ猶然猶ハ制限ヲ加ヘタル事ナリトシ唯獨
第二款ニ於テハ政府ハ提出猶ヲ有シ議院ハ有セス同ノ法律案ヲ同一ノ期
中ニ再ビ提出スルコトヲ許サヽルト唯一ノ制限アリ法律案ノ議決トシテ提
出セラレタル案ヲ議会ノ議決セラレタルコトヲ云フ議決セラレタル法律案
ハ確定ニ向テ議院ハ何ノ安ヲ議会ノ議決ニ於テ法律案ノ議決アリ
議決ノ法理ハ前ニモ既述セリト信ス再ビ言フヲ要セス国会ト雖モ
其意思ヲ表示スルヤ必ス機関ヲ以テスルヲ要シ機関ハ法令ニ則
ルヲ我憲法ニ於ケル議院論ト抵触スルカ如ク聞ユルトモ然レトモ我憲
法ニハ人格論ヲ意思主義ニ則ルヲ人格ト為スヲ意思ト為スヲ
ヲ存在ノ目的アル者ヲ人格者トスル法人格者ハ意思ヲ
ヲ以テ人格者ヨリ成リタル我憲法ハ初メヨリ意思主義ヲ法人論ヲ述ヘ
故ニ国会ノ議決トスルコトヲ認ムル必要ナシ何ヲ国会ノ

議決ト見做スヤ法律ノ規定ニ依ルモノニテ議院法ハ多数ノ議院ノ可ト
スル所ヲ其限ノ議決ト見做スヤトセリ法律ノ規定ニテ
多数ノ可トスル所ハ議院ノ議決ト言ハスト雖モ規定ニテ
認メサル以上ハ明ニシテ已ニ述ヘタルト信ス
法律ハ我憲法ニ依リテ成立ス我憲法ハ大権ヲ以テ法律トスルコトヲ命令スル者
ヲ国会ノ議決ニ与ヘタルモノハ法律案ヲ要シテ法律トナス我憲
ヲ我憲法ハ主ノ意ヲ可トシテ国法トナスヲ示ス意思表示ハ法律ハ我憲
ヨリ成立スト解釈ハ国法学者ノ多数ノ意見ニ従フノ外ナシ独リ
ハ我憲法ハ我憲ヲ以テ成立スト見做サス我憲ハ唯要ヲ意
意思ノ部ノ決定ニシテ公布ニヨリテ成立スルト説クカ如キ我憲ハ
此説ヲ採ラス法律ハ我憲ヲ以テ成リ公布ニ法律ヲ公布スルモノニシテ我憲
ヲ以テ已ニ成立セル法律ヲ公布スルモノ法律ハ我憲アルト無キトニ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

國の政体を以て法律の裁可云ふ君主ならハアり独乙帝國とハ
同今の勅令議会に致さしめ法律を発ス
即勅令議会か裁可を皇帝之を頒布し即皇帝か直印を
なり而ラ布之公布されなり複雑なる政体なるか故に其間に頒布ア
ルヿ日本の如き国に於テハ其法律か悉法的に成立セルヿ證
明スル要ナキナリ
又法律改正の裁可云ふ法律の原本改正されたる事を記録し
保存し公布ハ之の版とし公ニスルなり裁可を法律を作り公布とより
ハ法律か成立スル事明なるに手続上テモ明なり
又官報に正誤なるヿアリ公布して法律か成立されたる正誤アハ
ベキ筈なし改正アルヿ而モ正誤アルハ原本に誤りて正サルヿとしテ原本か
法律なりとする所以なり

公布の事に於て告知云フヿト説ク仏国流の説明なり或ハ流の説と
依て事実的に知ラシムルと外ニ公と証明されたりとする主義を採レリ
即君人か指利義務を主張スルハ公布に引て之を主張スルなり

第五章　命令

是法の用語として命令と云ふハ議会の協賛を経ずして君主か発し又ハ
発セシムル所の国の法則なるヿなり法則と命令トの区別ハ事実上の区別な
り形式上ハ国会の協賛を経ん否トの区別なり我政体ニテハ好て区別標

理ナシ法令モ亦主トシテ主權者タル君主ノ命令ニ所ヨリ
仏國ノ主權論ノ趣意ト從ヘハ法律ト命令トノ區別ハ立法權ト行政權ト
ノ區別ニテ形式ノ異ナルハ之ニ設ケタル人ヲ異ニスルカラ立法權ノ意思ハ法
律トナリ行政權ノ意思ハ命令トナリ此解釈ハ其末流論弁セスシテ我國
家ニ國權分立ノ主義ヲ我國法ニ適合サル代ハセヲ以テ我憲法ノ說ヲ
此仏國ノ說ノ変体トシテ模倣シタルニ過ハス而シテ之ヲ我憲
ナリトシテ之ヲ前ニ弁駁セシカ如ク我解釈トシテ足ラサル法令ノ区別ノ形式
ノ未タ充分ナラサル異ニスルノミニシテ之ヲ憲法ノ規定ニ引ケハ我憲法ニ
外ナラス命令憲法ノ規定ニ引ケハ我憲法ニ大權
命令法律ニ代ハル命令ハ法律ニ三ツアリ此區別ハ即チ大權
一般ノ命令ト法律ノ効力ヲ論スルニ如何ニ憲法論ニ極キタル

世ノ者ハ一概ニ法律ト命令トノ輕重ヲ論スルノ弊アリ例ヘハ命令ハ法
律ヲ変更スルヲ得ルトスル又法律ハ命令ヲ立ルヲ要スル
ニ過キサル命令ハ法律ヲ輕重ナレ唯規定
スルヲ得ルト雖モ法律ハ命令ヲ立ルヲ要
ス此等ノ異ニスルハ憲法第八条ニ依レハ命令ハ法律ノ変
更スルヲ得ルト雖モ命令ハ法律ノ下ニアリト說ク
如ク其主義トスル立法權ハ最高
ナリ行政權ハ其下ニアリ故ニ立法權ノ制定セル
命令アリテ直チニ原則ノ主張セラルヽ然レトモ法律ニ命令ヲ其
主權者立憲ノ意思ノ発表ニ外ハナラサル三權論ノ主義ニシテ法令ノ輕重ヲ
論スルニ故ニ概括的ニ法律ト命令トノ効力ハ輕重ヲ断言スル要ヲ
避ケルヲ要ス命令ノ權利ト異ナリ各ミ効力ヲ異ニスルナリ
法律ト命令トノ比較ニ法律ハ命令ヲモ重シトスルヲ国民ノ服従ノ程

度ノ軽重ト誤解スルコトハ或ハ法令ノ効力ヲ比較シテ法律ニ牙背スル命令ハ服従ノ義務ナシト論スルモアリ甚タシキ誤解ナリ凡ソ憲法ハ命令ヲ発スルニハ憲法ニ直接セサルコトヲ認メテ設布スルコトヲ然ルニ人民カ之ヲ法律ニ違反セリト認ムルトキハ其主義ヲ拒ムコトヲ得ルナラハ其主義ハ憲法ヲ其儘解釈スル見解ヲ並書セリトスル論法ナルモ人民カ解釈スル見解ヲ並書セリトスル論法ナルモ国法上之ヲ許ス可カラサルコトハ認ムルトキハ政府ハ全ク紊乱セラルル権力ヲ保ツ者ノ意思カ服従者ヲ束縛スルコトハ其本質ヲ主権者カ憲法法律ニ違ハスト決定シタル見解カ人民カ憲法法律ニ違反セリトスルコトヲ得ルナラハ権力ヲ保ツ者ハ然ルニ其上ニ立チテハ往々此誤解アリ必竟公法上ノ法理論ト私法的ノ法理論ト混雑スル従来ノ弊ヲ脱キ来ルヘシ私法上ノ対等ノ人ノ間ニ於テハ一保ツ人ノ意思ヲ他ノ人ノ意思ト異ナルトキハ二方ノ意見ト服従ニシテトスルトキハ各対等ニ争ヘ

得ルヤ否ヤ私法ニモ所謂公法ニ属スル人ノ法律論トスヘキ直ニ此私法的ノ観念ヲ以テ国家ト人民ノ間ニモ準用シ政府カ発シタル命令ヲ違憲ナリ違法ナリトテ背ク得ルカ如ク説明スルトキハ憲法ヲ軽重ハ之ヲ設ケタル権力ヲ有スル人民カ服従スル程度ニ於テ軽重ノ差アルコトヲ認ムルニ至ル命令ニモ法律ノ規定ニモ憲法ノ規定ニモ共同ノ服従スヘキカ臣民ノ安全ヲ図リ迅速ノ命令ヲ必要トスル故ニ軽重ヲ得ヘシトスルトキハ命令ハ直接ニ人民ニ対シテ強制スル力ハ法律ト同一ナリ畢竟其性質的ノ力カ異ナルニ基キ性質的ノ効力ト法律ヲ変更スルハ命令ニ於テ変更スル意味ニ同ジ而シテ法律ヲ以テスヘキトキニ於テ命令ヲ以テ変更スルトキハ絶対的ニ既ニ憲法ニ背ク其則チ我憲法ニハ第九条ニハ命令ヲ以テ法律ヲ変更スルコトヲ得ヘシ

我憲法ニテハ命令ヲ以テ法律ヲ変更スルコトヲ得ル其九条ハ普通ノ行政命令ニ適用シ得ヘキモノニ但此場合ニモ法律ニ違フ命令ハ服従

ニハ我務ナレトモ不可ナリ命令ヲ以テ法律ノ義務ヲ変更スルコトヲ得ルトハ我主又ハ大臣カ命令セルトキハ心得ヲ示セルモノナリ之ニ義務アリ法律意又命令ハ過ヲ出テ義務ナレトカ無効ナリトモ云フヲ得ルトスルモ是法律ニ違ヒ誰カ解釈ヲ得ルモノナルカ人民ニ其解釈ヲ強テ然リト断言スルコトヲ得サル以上ハ其法律及ナリト思フニ強テ然リト断言スルコトヲ得サル故ニ其従フヲ服従セサル可ラサル理ハ政府ニアリ故ニ其解釈ハ人民ニ服従スルノ義務アリ政府ノ命令論ト日本ノ命令論トハ異ナルコト記臣服スヘシ政府ノ命令ハ日本ノ命令ト異ナル我国法ノ如ク国会ノ協賛ヲ有セスシテ出ツルモノカ異ナルト解釈スルヲ以テ此三箇論ニ基ノナリ命令ハ法律ノ執行スルニ其職務ナリトモ

我国法上命令ハ法律ノ下ニアルヲ以テ上ニアルヲ又法律

ニ対スルコアリ

命令ニ種類

廣ク命令ト称スルハ詔勅命令ノ勅令ノ勅令ハ其形式的ノ名目ナリ注意シテ論スヘキ其実質ニ変化セサルヲ以テ其実質的ノ名目ニ注意シテ論スヘキ其実質的ノ名目ニ注意シテ論スヘキ

命令ハ法規ヲ設定スル命令ナリ事務訓令トハ行政官庁ニ対シテ事務ノ取扱上ノ規則ヲ示ス法規トモ云フ元来処分ニ対スル辞令ハ特別ノ人ニ対シ特別ノ事件ニ関シテ定ル所ノ規則ナリ又命令ハ特別ノ人ニ対シ特別ノ事件ニ関スル命令ナリ例ヘハ人ヲ傷ケルモノヲ罰スルカ如キ法規ナリ現ニ人ヲ傷ケタル者ヲ処罰スル処分ナリ法律ニ違ヒ観念ハ已ニ論ス示シタル如ク事物相次テ発スル形容ヲ意味スル主権者カ制裁ヲ以テ定ムル事実アラハ之ニ伴フ事実ヲ以テ命令トスルモノカ法規ナリ法規カ所

結果ヲ惹起シ行為ノ処分ナリシト法規トシテ存在スル意義タリ而シテ主権政体ノ憲法ニ於テ特ニ法規トシテ「一般人民ニ対シテ効力アル法規ヲモ」フヤリ定ル政体ニシテ官府ニ訓令ヲ与フルト同民一般ニ命令ヲ与フルトノ効力上区別シ後今日ノ刑法ノ如キ法則ヲ単ニ官吏ノ内意トシテ訓令ヲ過キサルヲ以テ然ルニ立憲法治ノ時代ニ於テハ国家ト人民トノ干係規定スル法則ト行政主長ニ属スル政府ノ指揮ニアリ官吏ニ訓令スルトキハ区別セス人民ノ自由ハ法則ニヨリ制限セラル官吏ニ対スル訓令ハ行政部内ニシテ其効力ヲ有シ之ヲ立ツル人民ノ権利自由ヲ害シ又ハ賦課スル法則ト区別ヲ明ニスルヲ憲法制定ノ精神ナリ而シテ命令トシテハ訓令ノ効力ヲ発スルトキハ対外上ノ区別アリ各々名ヲ異ニスル何ナル命令スルカ問題ニ属シ故ニ命令実質的効力ハ其命令所属ノ如何ニ并論スルヲ要シ於是法規命令ト訓令トノ区別アリ

命令ノ実質カ国民一般ニ対シ法律ト同シク人ノ行為ニ拘束ヲ与フルモノナルトキハ之ヲ法規命令ト称シ其他者ハ之ヲ其他ノ命令ト称シ政府内部ニ于テ取扱ヒ行政官吏ニ与フルトキハ之ヲ訓令ノ性質ヲ有シ法規ノ性質ヲ有セサル故ニ此区別アリ

学理上命令ト云フトキハ(Verordnung)必ス之ニ対シテ其ニハ正格ナリトス然レトモ我国ニ適用ノ時ハ(Verordnung)ヲ命令ト訳シ一般ノ律則ヲ意味スルヲアリ之ヲ立憲ニ故ニ我命令ト云フ時ハ立憲独逸国法論ニ所謂(Verordnung)ヲ解スルヲ故ニ命令ノ中ニハ其性質カ如何ナルヲアリ例ハ明ニ(Verordnung)ハ情況ニ応シテ私令カ発布セラルヲ以テ一般ノ律則ヲ示シ之ヲ訓令ト云フ特定ノ行為ヲ命シ又ハ特定ノ行為ヲ禁シ之ヲ命令ト称シ故ニ我国法ニ命令ト云フトモ解スヘキ可ラス唯訓令ノ如キ其ヲ表示シ政府

今朝屋敷を出て久しく歩き疲れて平山の茶屋に入る茶屋の主人平山の
名を聞きて驚き茶屋を飛出し平山の手を取り茶屋に入る
平山は茶屋の主人に向ひ
茶屋の主人は平山に向ひ
茶屋の主人は平山に向ひ
茶屋の主人は平山

事項ハ憲法ノ明文ヨリシテ君主ノ親裁スルコトヲ要スルトシタル事
項ヨリ寧ロ君主ノ親裁スルトノ誤解ヲ可ナラシムル君主ノ親裁スル
モ自由ナル政務ヲシテ然ラシムベキ憲法上ノ要件トシテ之レモノアリ
憲法上ノ要件トシテ之レモノアリ止事項ヲ大權事項トシテ前大權
論ノ所ニ説明セリ其事項ハ規定スル命令ヲ大權命令トシテ
凡ソ勅令ハ法律ヲ発スル所ヨリ発スル所ノ勅令ハ必ズシモ大權命令ニ
立法事項ヲ定ムルモアリ改系紊亂ノ如シ又ハ大權事項ハ立法事項
ニ好ハ於テ勅令ヲ発スルアリ憲法九条ノ場合ノ如シ勅令ヲ発スルトキ
權ハ大權ニ出ル勅令ハ必ズ大權事項ヲ規定スルモノトシ
勅令ト他ノ勅令トノ区別ヲ知ルベシ

大權命令トハ余ノ初メニ用ヰタル明諸國ニテ大權ト云フ
我國ニ於テハ其ノ基ノ命令ヲ

我國ノ通説ハ命令ニ基ク大權命令トハ異ナル凡テ命令ヲ
段スルヲ得ルナリ

大權命令ト憲法上ノ法律トハ相對時シテ行政命令ニ於テ大權命
ニ於テ法律ハ侵スヲ得ズ大權ハ法律ヲ侵スヲモ許サズ
令ハ法律ニ於テ侵スヲ得ズ又大權ハ法律ヲ侵スヲモ許サズ
独立シテ相侵サルヲ憲法ノ規定ヨリ何故ニ者相侵スヲモ憲法ノ
規定ニヨリテ見ルトキハ二者各規定スル事項ヲ異ニスル故ニ同ノ事ニ付キ
法律ト大權命令トガ共段セラレ得ルトキハ二者抵觸シタル場合ニ何ヲ
以ヘキカノ問題トナルベシ然レトモ大權命令ハ大權事項ヲ規定シ大權事
項ハ立法ノ範圍外ニテ故ニ二者各憲法上ノ領分ヲ異ニスルヲ故ニ相
侵スヲナキナリ

明ノ國法論トシテハ大權命令ヲ認メスト云フコトハ可ナラズ凡テ法律ヲ以テ

同家最高ノ意思ト為スヲ以テ彼此ノ憲法ノ主義タル二前ニモ述ヘタリ故ニ法律ヲ改正復活ヲ得サル命令アルトキハ大權命令ハ実ニ我憲法ノ特色ニシテ

大權命令ハ代ノ命令ト為メニ発セラレサルヲ論ヲ俟タス元来公布式ノ形式ニ於テハ大權命令ト憲法第九条ニ依ル命令トヲ区別セサル或ハ論理上不満足ナル習慣ナリ然レ共形式上形式ナキトハ大權事項ノ規定ヲ以テ行政事項ヲ規定スルモノカ必シモ形式的ニ区別シ得サル場合アルヘシ而シテ俄勅令ノ性質ヲ論スレハ或条項ハ大權事項ノ規定ナルカ故ニ法律ヲ改正変更スルヲ得ス或条項ハ行政命令ノ性質ナルカ故ニ之ヲ変更スルヲ得ルトスルトキハ如何ト云フカ此ノ命令ハ実質ニ付区別シ難キ為ニ憲法第九条ノ命令ト大權命令トノ形式上区別スルヲ要セサルモノトス

第二。法律ニ代ル勅令ハ憲法第八条ニ依ルモノナリ公共安寧ヲ保持シ又ハ災害ヲ避ケル為メ緊急ノ必要ニヨリ帝国議会ノ閉会ノ場合ニ於テ憲法ニ代ル勅令ヲ発スルヲ得憲法上ノ立法事項ヲ規定スル勅令ハ如何トスヘキカ之ヲ例トスル法律ハ必ス法律ヲ以テノミ変更スルヲ得ヘシ然ルニ其例外トシテ緊急ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ現行法律ヲ変更スルトスハ新ニ立法事項ヲ規定スルヲ例外トシテ許スヲカ憲法第八条ノ規定ナリ

此勅令ヲ発スルハ大權ニ属スル然ルニ大權命令ト区別スル所以ハ其規定スル事項カ大權事項ニ亦サルカ故ヲ以テ法律ニ代ルトスル意味ニ法律ト同一ノ効力アリトスルトキハ如何ニ之ヲ乱スヲ以テ公共安寧ヲ保持シ又ハ災害ヲ避ケルトキハ之ハ緊急ノ必要ヲ存スル所以ナリ議会閉会ノ場合ニ於テモ議会中ニ訴サル故ニ其

協賛ヲ与フルヲ為スヲ可トスト雖モ其難アル為メ緊急ノ必要ヲ生ズルヨリ故ニ独リ憲法ニハ緊急命令ヲ称シテ此法律ニ代ル勅令ヲ憲法違反ノ勅令ナリト設クルモアルハ甚ヒキ誤解ニテ此ニ禁敷ル値モナシ憲法ノ明文ニヨリ発スル勅令カ憲法違反ナリトハ文字上抵触セル見解ヨリ只英国風ノ憲法論ニ惑ヒ入ルノ緊急場合ニハ政府カ止ムヲ得ズ憲法違反ノ働ヲモ敢テ国会ノ追認ヲ請フヲ如ク設明セラルモノアルカ故ニ此明白ナル誤解カ尚世上ニ行ハレツヽアル所以ナレヘシ

此勅令ハ次ノ通国会ノ開会ノ場合ニ之ヲ提出シテ承諾ヲ得ルヲ要ス

議会カ承諾シタル時ハ勅令ハ其儘ニテ永久ニ効力ヲ有ス議会カ承諾ヲ拒ミタル時ハ政府ハ之ヲ廃止スト雖モ既ニ為シタル事ニ付テハ政府ハ其責ニ任ス

法令ノ廃止ノ如ク将来ニ向テ効力ヲ失フヨリ普通ノ法律ノ廃止ト大ニ異ナルヲ以テ之ヲ廃止スルヲ要セス

此勅令ハ議会ノ否決ヲ受ケテ然ル後廃止セラルヽ者ニシテ勅令ヲ以テ之ヲ廃止スルヲ要セス

憲法ハ勅令ヲ廃止スル条件ヲ定メタルモノナリ議会ノ否決ヲ以テ条件ナキ天皇カ之ヲ廃止スルヲ妨ケサリ世上此ニ付テ格モ特殊ノ変例アルカ如ク疑ヲ懐クモノアルモ法律命令ニハ屢々其名称ノヲ或ハ未来ノ条件ヲ係ラシムル例極メテ多シ或ハ法律ヲ以テ法律施行ノ日ヲ定メサル時ハ効力ヲ失フヲ条件付キニテ時ノ規則ヲ廃スルヲモアルヘシ此等ハ屢々アル例ト云フヲ異ナラス議会カ否決スルトキハ之ヲ廃止スルト雖モ其行為ハ議会ノ承諾ト云ハ格モ勅令ト云フ如ク唯通俗ノ文字ヲ取容レタルニシテ法理ノ解釈ト云ハ議決ト云フヲ何ノ意味モナシ承諾ト協賛トハ異ナル意味ナリ此議決ヨリ進ミテ実ヲ追認スルニ至ル議会ノ追認スルヲアラス議会ノ追認ヨリ進ミテ憲法明文ニテ勅令カ之ヲ定ムル権能アルヨリ君主ノ権限外ノヲ為シタル訳ニテ憲法明文ニ於テ之ヲ追認ヲ必要トスル条理ナシ議会ノ承諾ヲ要スル

之ヲ法律トシテ將来ニ向テ効力ヲ有スルコトキヲ以テ故ニ議会ノ議決ハ緊急命令ヲ発スル必要アルヤ否ヤ過去ノ事実ヲ討論スルモノニ外ナラズ此外命令ハ問題ヲ生ズルヤ否ヤニ付議決スルヲ以テ議会ノ承諾ヲ立ツルヲ要ス主ノ責任ヲ解除スルトナスヲ以テ英国ノ国法論ト全ク異ナル所ヘ英国ニテハ緊急勅令ヲ発スル猶ホ議会ノ承諾ヲ要スルヲ故ニ憲法違反ノ責任ヲ解除セラルヲ請フ責ヲ負ハシムルヲ以テ国会ニ対シ憲法違反ノ責任ヲ解除セラルヲ請フ訴訟ヲ提起スルトキニハ過去ノ事実ヲ見テ其実必要ニ出テタルヤ否ヤヲ認メタル上憲法違反ノ責ヲ解除スルヲ得ベキ故ニ英国ニ於テハ議会承諾ノ法理ヲ我憲法ニ全ク根拠ヲ異ニシテ初メヨリ憲法違反ト云フ責任解除ノ必要ナル過去ノ事実ニ当テ議会ニ問フ必要ナシ但ハ將来ニ法律トシテ存スルヤ否ヤニ意見ヲ国会ニ問フモノ承諾ト云フ曖昧ナル文字ヲ用ヒタルハ甚タ遺憾ナリ蓋シ英国ト全ク之ニ対シ規定ヲ

サシヤウ同英国風ノ語ヲ借リ用ヒテ事後承諾トカ議決アル法文トナリシナリ

第三。行政命令ハ憲法上ノ大権事項及憲法上ノ法律事項ニ付発スル所ノ命令ヨリ憲法第九条大権命令ハ大権事項ヲ規定シ此大権事項ハ法律ニ代ル者ナリ故ニ法律ニ代ル者ナリ故ニ第八条ノ命令ハ法律ニ代ル者ナリ故ニ法律ニ規定スルモノ自由ナリ此自由ハ乱用ニ陥ル所ノ者ヲ防ク憲法第九条ノ命令ト雖モ法文ニ法律ヲ執行シ又公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スルカ為メ命令ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ発スルヲ得ベキトキハ此規定ハ法律ニ抵触セサル限リニ於テ行政ノ目的ノ為メニ天皇ノ発シ又ハ発セシムル命令ナリトス然ルニ大権ノ事項ニ付テハ大権ノ命令ニテ其事項ヲ限リテ特別ノ性質ヲ有スル憲法第九条ノ規定ハ行政ノ目的ニ「メニ発スル命令ヲ指ス故ニ全章ニ

大権命令ト区別シテ行政命令トシテ各称ヲ附シ
行政トシテハ大権及法律ノ下ニアリテ国家ノ目的ヲ達スル為メニ国権ヲ行
使スルヲ除ク外共安寧臣民ノ幸福ヲ維持シ増進シ法律ヲ執行スル
等ノ公共行政ノ働ノ目的ヲ示シタルモノナリ元来行政命令トシテ語ハ独リ風
用方ニテハ行政官庁ノ発スル命令ヲ云フ而モアリ然レトモ行政官庁ノ
人民ニ対シテ国権ヲ行フニ対シ標準トスヘキ所ノ命令ヲ指シテ行政命令ト称
スルモ可ナリ故ニ我憲法ハ斯ノ命令ヲ行政ヲ行フニ付キ
標準ナルヘキ規則ヲ示ツリ焉法上国家ノ範囲ヲ有スルアラス
法律ニ支行政ノ準則ヲ与フルモノトシテ即チ行政ノ準則タルヲ以テ然ハ
或ハ必ス法律ニ改ムルヲ要スルヲ以テ又或ハ必ス法律ヲ改ムルヲ要セサル法令
共同ノ区域ニ属スル政務ニ付テハ第九条ノ命令ハ法律ノ下ニアリ
故命令ハ法律ヲ以テモ変更スルヲ得キ大権命令ト行政命令

所以ナリ大権命令ハ命令ナレトモ法律ト相対峙シテ法律ヲ改ムル義
務スルヲ許サス又モ行政命令ハ即チ第九条ノ命令ハ法律ノ下ニアリ
法律ヲ以テモ変更スルヲ得キモ我憲法ハ大権命令ト行政命令
トヲ区別スル所以ナリ
法令共同ノ区域ナルカ故ニ法令ヲ相関ツテハ法律カ法令ニ勝ツトキハ元
則ノ行政命令ハ法律ニ下係ニ付キ法律ノ丸ノ命令ニ付キ論ヲアラマ
故ニ之ヲ代ノ命令ニ区別セサル可ラス
此点ニ特ニ自然憲法ハ我憲法ハ解釈スル者ノ比説即チ採ル所ニテ独リ
風ノ理論ニ従ヒ法律命令ノ説明ヲ為ス者ノ解釈ト主意ヲ異ニ
スル所ナルカ故ニ注意ヲ乞フ
前ニ大権ノ説明ニ述ヘタルカ如ク仏国独リ風ノ国法ニテハ法律ト命令ト区
別シ法律ヲ国家最高ノ意思トシテ主義ニテ丸ヲ命令ハ法律ト

[illegible]

[illegible]

[illegible]

リテ認メタル其請求ヲ拒絶シタルトキハ解釈アル故ニ
之ヲ解釈シテ他ノ者ヲ実得シタル通理ナレトモ同家ト人民トノ間ハ猶カノ
干係ニシテ官府ノ解釈ヲ以テ別ニ訴ヘテ私人ヲ来得シ得ル性質ノ者ナ
リ故ニ私人法律ノ解釈ニテ公命ニ市部無効ヲ求ッテヲ得ベキ猟師ア
官立猟ヲ違法ナリト認メタルトキハ同家ノ立場ノ手続トシテモ服従シ保
因ト為ルナリ違法ノ命令ニ絶対ニ無効ナリト誤解シ可ラズ
違法ノ命令ニハ服従ノ義務ナシトハ解釈如何ニヨリテ正当ナモ
不正当ナモナリ何人如ノ手続ニ付テハ或ハ正当ナル性質ノ命令ニ
違法ノ請求ニ応ズル義務ナシトマッテ応セザルトキハ何人間ニテ強制スル
能ハザルモノ猟カヲ係ニ拒ミテ判決セザル可ラズ猟カヲ係ニ於テ違法
ノ命令ニモセヨ服従セザル可ラズトスルトキハ解釈猟ハ同家ニ
取テ法ハ公ノ機関ニシテ人民ノ解釈ニ任ズルト雖ドモ

序ヲ猶特ニ別ニ解釈スルヲ得ベシ
然レトモ違憲ノ命令ナラハ官府ハ之ヲ取消スニ義務アリ又猟ノ
方法ニ誤リアリテ取消サルヲ得ルモノナリ此等ノ場合ニ裁判官又ハ審
判官カ違法ノ命令ヲ取消サルトキハ判決ニ代ヘテ取消ヲ得ベシ此ニ
リ見ハ違法ノ命令ハ服従ノ義務ナシトスルヲ得ル別ヲ
問フヲ解スベシ
欧州ノ憲政体ニ於テハ大猟命令ト行政命令トヲ別セザルヲ以テ前説
明セルカ如ク従テ猟ノ法律ト命令トノ干係論トシテ誤解発生シタリ概シテ
云ヘハ仏伊等ノ憲法ハ性質ニ於テハ命令ヲ執行スル為メニ発
スルモノトスルヲ以テ行政命令ハ法律ヲ執行スルニ発スル故
法律ト欠漏ヲ補ヒスル為メニ発スルモノトスルヲ以テ猟ハ
此原則ニ基ヒ命令ハ論ノ法案トシテ仏伊ノ法律ハ主義ヨリ保ス成ル等ト

実際ニ於テハ法律ノ執行ニ代ヘテ行政ノ利用ニ応ズル能ハザル故ニ或ル学説ト
シテ法律ノ執行トキコヲ捉メテ行政ノ模範トシテ解釈シ執行ニ代ヘテ執
ルコヲ強テ執行ナリト附会スルニ至ル又其実質ニ主義ヲ扱フカ為メニ法
律ノ委任アル場合ニ於テ法律ヲ補充スルヲ得ト解釈セリ純粋ニ
権令立論ノ実法ニテハ人ノ自由ヲ束縛スル場所ハ如キ行政命
令トシテ定ムヲ得ズ況ンヤ人民ノ財産ヲ束縛スル場所ニ於テ
況ンヤ立法機関ニシテ定ムル能ハザル故ニ法律ノ
委任ヲ待チ実際ハ行政官ハ勅令ヲ発スル故ニ事実ハ我国ト其ニキ
区別ナシ併シナガラ主義ハ全ク異シリ我行政命令ハ法律ノ執行ニ
従ヒ抵触セザル限リハ別ニ法律ノ委任ヲ俟タズシテ命令ヲ発シ得ルモノトス前ニ述
ベタル如ク仏国ノ憲法ニテハ法律ノ委任ハ(Délégation)ト云フ制度ヲ採ラ
ズ実際ニ適用スル点ニ於テ

過キズ元来法律ノ委任ト云フ語ハ語先ト自身トシテハ穏当ナリ又文字ニ
拘ハラズ解シテ其趣意ヲ不穏当ナリ法律ハ命令ニ委任スト云ヘバ語トシテ
法令ヲ又格告ノ如ク見做シ其間ニ権利ノ委托アルカ如ク形容スルコトハ実
当ノ語トナラズ不穏当ナリマ法律ハ立法権ヲ人ニ立法権ハ行政権ニ権力ノ部ヲ
委托スト見ルモ彼ノ三権分立ノ原則ト直接ニ抵触スルナリ三権分立ハ
立法行政司法各権力ハ各分離セシ混同セズ相侵サルコヲ主意トス
ルナリ若シ立法権ハ立法ノ外ニ行政ノ外ニ司法ノ外ニ行
政ヲ委任スルコトアリセバ主義ノ如ク三権分立ノ原則ヲ破
モノナリ故ニ仏国ニテハ先ヅ法律ノ委任ト云フコトハ全ク彼ノ自身ノ
主脳ノ地位ヲ忘レテ実際ニ不都合ナル憲法ヲ回避シ行フカ為メニ
外ニ過キズ
独ヲ学説トシテハ仏ノ観念ハ行政官ハ命令ハ法律ヲ

執行スルニ止マリ法律ヲ補助スルカナト解釈セリ保ハ数ノ人間ヘクナイト
ラバヒド其人独立命令トモ云ヘ法律ヨリ独立シ即チ法律ノ委任ニ依ラズシテ
命令ヲ発スルハ憲法ニ認ムルモノナリ

我憲法ハ此其ノ例ト独逸ノ憲法ノ規定トヲ比較シテ法律ノ
執行ノ外尚法律ニ抵触セズシテ安寧福利ノ為メニ発スル特ニ法律ノ委任
ヲ要セズシテ勅令ヲ発スルコトヲ認ムルモノナリ

憲法第九条ノ起草者ハイタイヒノ著ハシタル伊仏等ノ学説及独乙ノ
学説ヲ集メ自説ヲ述ベタリ保シ独乙命令権ニ付キイエリネック
ラバヒド ゲナイスト アルヒド 其権ヒノ事アリ
仏国ノ教科書ハ Duguit Laferrière 及其他ノ数似ノ
書アリ保シ理論ハ其国ノ即チ法律ノ執行ハ法律ノ委任ヲスル外
命令ヲ発スルコトヲ能ハズトシテ故ニ仏国ニ法律ノ委任トシテ

説明シタルモノナリ
私法上ノ手続ニ付テハ権利ヲ委任ス又全ク他ニ法
上ニ於テ与ヘラレタル事ヲ得ベシ委任スルコトヲ得ベシ然レトモ法
ハ国会ニ基ヒテ之ヲ認メ国家ハ社会ノ秩序ヲ維持スルニ必要ト
見ルカ故ニ之ヲ其ノ人ニ委任スルヲ能ハサルナリ然レトモ三権
分立主義ノ処ニテハ其主義ニ反ス
我国ニテハ三権分立主義ヲ採ルヲト雖モ憲法カ其ノ人ニ権能ヲ
他人ニ譲リ又委任スルヲ許サズ然レトモ仏国独逸ニテ法律ノ委
任トキツテ十ケシ公命令ヲ出スヲ能ハズ故ニ行政ヲ円満ニ行フヲ能ハス
故ニ之ヲ口実トスルハ
我憲法第九条ニ於テハ其ノ点ヲ十分ニ補ヘリ故ニ法律ノ委任
トキツテ云ハサレ共一内閣支ナキヨリ又憲法ノ正面ノ解釈トシテモ

許可ニ
法律ヲ執行スル為メニ命令ヲ発スルハ法律ヲ執行スル
ニ委任ニ依レル外ニ
行政命令ニハ公文式ニ定マルモノヲ勅裁ヲ仰キ天皇自ラ公布シタルモ
ノ勅令ニシテ以下省令縣令等アリ其何レヨリ出テタルカ
ヲ形式上ノ区別ナリ
現今ハ法律ハ官報ニ載セテ公布スルヲ法ト云ヒ命令モ法律ト同ク
厚紙ヲ作リ裁可ニ公布ニテ始メテ成立スルモノナリ此ハ君主ノ権限
内ニ於テ直ニ裁可ニ公布スルナリ此等ノ点ニ法理ハ法律命令ニ
モ異ナラサル
府縣令以下ハ才ニテ発スルモハ各府縣ニテ定ムモ公布式ニヨリ公布ス
ルコトニシテ其ハ定ムル式ニ依ルモノトス

命令ノ分類ヲ三種トセリ然レトモ好種々ノ分類ハ法律命
令ヲ手係ヨリ命令ハ執行命令独立命令ニトスルナリ独乙風ナリ
前者ハ法律ノ執行ノ為メニ発シ后者ハ法律ニ抵触セサル限リ於
テ委任セラレテ発スルモノナリ又ハ好委任命令トモ云フ者アリ此ハ法律ノ
委任ヲ俟ツ発スルモノナリ之ハ規令ト行政命令トノ区別アリ前者
法律ノ性質ヲ有シ后者ハ訓令ノ性質ヲ帯ツ此他警察命令
命令ハ直ニ命令ニ等ク拘束アラス
然レトモ警察命令ハ公ノ危害ヲ防ク為メニ設ケタル
公ノ危害建物ハ人文物ヨリ成ル公ノ幸福ノ為メニ設備セラレタル
者ナリ此ハ如キハ行政法上ヨリ区別ニ見ルナリ

第六章　法令の範囲

此処に法令の範囲とは如何なる事柄を規定できる命令なるかを明かにすべきものとする所の法律の定める範囲を明かにすべきものとする所の法律の定める範囲を明かにすべきものとする所の法律の定める範囲を

行政好ノ範囲ニ入レテ同立法權ガ行政ト云フト同一ニ觀ズルヲ非ス
仏國ノ如キ我政府ト全ク異ナル憲法ニテモ認ム賠償ニ仏國ノ憲法ニ所謂
Petit Délit ノ如キモノナリ仏國ノ公法学者ガ政治ト項ト行
政ト項ニ区別ヲ立テタルハ之ヲ参考シテ足レリ
第二ニ憲法上ノ立法ト項トニ於テハ憲法ノ規定トシテ法律ヲ以テ規定シ
条件トシテ掲ケタル政務ノ範囲ヲ例ヘバ憲法第二章ニ掲ケタル所ノ如シ
立法ト項ノ大權ヲ以テ規定シタルコトヲ得ベク又命令ヲ以テ規定スルコトヲ得ベ
ク法律ヲ以テ規定シタモノトシテ立法ト項トニ等シク法律ヲ以テ規定シ
意味ニ於テ必ズ法律ヲ以テ規定セザル限リ其ノ事項ヲ立
法ト項ノ文行政官庁ニ委任シテモ規定セラルルカモ之ハ前ニ示ス所
ト同ジ様ニ憲法ノ精神ハ主ヲ詳サレテアリト信ズ法律ガ命令ニ委任
シテ或規定命令規則ニ依レシトスルコトヲ定メタル目的ヲ通常立法ト

項ニ委任スルコトハ此ノ如キ命令ガ議院ノ議決ニ基キ議院ガ並ニ權限ヲ委任シタルトキハ
規則ニ準ジテ命令ニ於テ定メタルトキハ議院ガ並ニ權限ヲ委任シタルトキハ
議院規則ニ準ジテ命令ニ於テ定メタルトキハ例ヘバ法律ガ公ノ秩序ニ関セザル慣例ハ
法律ト同力ヲ有スト規定シタルトキハ慣例ハ法律ニ代ルモノナリ此場合ニ於テ
ガ慣例ハ國民ノ間ニ自然ニ成立シタル權利義務ノ論ニ
リ習慣ハ國民ノ間ニ自然ニ成立シタル權利義務ノ社会ノ自然ノ要求ニ
委任スルコトヲ如ク論ジタルモ然ルベキ可ニ何人モ此議論ニ異議ナキ
即チ法律規定ニ基ルモノナリト說明セリト同ジ論理ニ行政上ニ於テ法
律ガ無定義ノ規定ヲ以テ服從スル規則ニ準ズ之ニ可ニテ命令ニ於テ
伝ルカ即チ法律ニ服從スル規則ニ準ズ此場合ニ立法權ノ議院ニ委任
スト說ノ必要ナシ此場合ニ立法權ノ議院ニ委任
命セラルルハ認メラルルモ立法權ノ行政官庁ニ委任セラルルハ論ノ協議

ヲ経テ天皇ノ裁可ヲ仰ヒトシテ憲法上ノ条件ヲ具備シ法律ニ代ル命令ヲ行政官府ニ発セシムルコトヲ委任スルコトヲ認メサルカ故ニ特ニ其憲法第八条ノ例外ヲ掲ケテ緊急ノ場合ニ於テ法律ニ代ハルヘキ勅令ヲ発スルヲ得サルトキハ勅令ヲ以テ行政官府ノ権限ト法律ニ代ル命令ヲ発スルヲ許サル特別ノ勅令ヲ以テ之ヲ規定スルモ時ノ政務ニ便宜ニ依ルヘキヲ憲法カ許サリシヲ他ノ場合ト異ナリ法令共同範囲ト名付ケタリ

此範囲ニ属スル法律ヲ定メタルモノ命令ニ属スルモノ法律ト命令トノ範囲カ示サレタルモノ法律ヲ以テ命令ヲ侵スコトヲ得ス而シテ命令ヲ以テ法律ヲ侵スコトヲ得ス之ハ憲法上ノ法理ニ属スル

定ハ自由立法ニ委スルモ可ナリ而シテ立法ニ委スルモノ法律ヲ以テ定メタルモノ法律ヲ以テ之ヲ定メタルモノ命令共同ノ範疇ニ属スルモノ法律ヲ以テ之ヲ定メタルモノ命令ヲ以テ之ヲ定メタ

国ヲ集合政体ニ組織スル原則ナルカ故ニ掲ケ必要ナルトキハ抵抗ス
ルモ仏独逸ノ説ハ之ヲ認ム
又法律ハ主権者ノ意思ノ表示ナリ主権者カ実質上人権利義務ノ標準トスル意
味ニ於テ法律ハ議会ノ所為ニ属スルモノトスルトキハ之ヲ実質的ノ解釈ニ入ル自
由権利ニ干係スルコトハ議会ノ決議ニ属スルモノトスルトキハ之ヲ形式的ノ解釈ニ入ル多
シ概シテ欧国ハ法律ニ於テハ国民ノ自由財産権利ニ干係スル規則ハ凡
テ法律ニ属スルモノトセリ此説ハ之ヲ要スルニ人命ノ範囲ハ人ノ自由財産権利ニ干
係スルガ故ニ法律ニ定メシ止マルコトナリ所以モ亦之ニ命令ハ宜法律執
行スルヲ以テ定メシ止マルトスルナリ
此原則ハ普通法律トシテ観念セサルヘカラス而シテ説明
シタル如クデルシ人種ハ普通法ノ習慣ヲ有ス故主権者ハ法
律ハ社会ノ自然ノ習慣ヲ以テ国会ハ社会ノ総会

合トシテ普通法ノ変更ヲ加フルヲ得ヘシ故主権者自己ノ使役スル官
吏ニ対シテハ命令権ヲ有スル代算独リ普通法ノ変更スル権限ナシ此ハ
議会ノ専有ノ所ニ属ス説明セリ此等アル欧国ニテハ人ノ権利義務ハ定
メル国法ト国民会ノ議決ニ依ルトキハ国体ニ基キ伴フ観念ナリ
トスルコトヲ得ヘシ
又全能主義ノ政論論ハ根拠ヲ有シ主権ハ国民全体ニアリトスル
ノ説原トシテ法律ハ主権者ニアル主権ヲ代表スル人国民会ナリ
故ニ人ノ自由権利ヲ原付スル権力ハ国会ニ存スルトスルカ政論
上ヨリ論決セラルヘシ
其他政論上実際ノ執事トシテ君主及官吏ノ事務ヲ拒防スル政令
ハ命令権ノ範囲ヲ狭ムル丸テノ議会ノ決議ノ範囲ニ優モ
ニメントシタルナルヘシ

ハ海外諸国ト之ヲ対峙シ之ヲ統ベテ国際ノ地位ヲ保チ以テ文化ノ発達ヲ図ルヲ要ス而シテ此目的ヲ達スルニハ先ツ国内ノ統一ヲ完ウシ国力ノ充実ヲ期スルヲ要ス

第二ハ国内ノ統一ヲ完ウシ国力ノ充実ヲ期スルニハ先ツ内外ノ情勢ヲ考ヘ国民ノ思想ヲ一定シ人心ノ帰向スル所ヲ明カニシ以テ国是ヲ定ムルヲ要ス

第三ハ国是ヲ定ムルニハ先ツ国体ヲ明カニシ国体ヲ明カニスルニハ先ツ国史ヲ明カニスルヲ要ス

第四ハ国史ヲ明カニスルニハ先ツ国語ヲ明カニスルヲ要ス

第五ハ国語ヲ明カニスルニハ先ツ国文ヲ明カニスルヲ要ス

第六ハ国文ヲ明カニスルニハ先ツ国風ヲ明カニスルヲ要ス

第七ハ国風ヲ明カニスルニハ先ツ国民ノ性情ヲ明カニスルヲ要ス

第八ハ国民ノ性情ヲ明カニスルニハ先ツ国土ノ地理ヲ明カニスルヲ要ス

第九ハ国土ノ地理ヲ明カニスルニハ先ツ国土ノ発達ヲ明カニスルヲ要ス

第十ハ国土ノ発達ヲ明カニスルニハ先ツ国土ノ開闢ヲ明カニスルヲ要ス

第十一ハ国土ノ開闢ヲ明カニスルニハ先ツ国土ノ成立ヲ明カニスルヲ要ス

第十二ハ国土ノ成立ヲ明カニスルニハ先ツ宇宙ノ成立ヲ明カニスルヲ要ス

第十三ハ宇宙ノ成立ヲ明カニスルニハ先ツ宇宙ノ原理ヲ明カニスルヲ要ス

第十四ハ宇宙ノ原理ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ本性ヲ明カニスルヲ要ス

第十五ハ人心ノ本性ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ作用ヲ明カニスルヲ要ス

第十六ハ人心ノ作用ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ発生ヲ明カニスルヲ要ス

第十七ハ人心ノ発生ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ起因ヲ明カニスルヲ要ス

第十八ハ人心ノ起因ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ本体ヲ明カニスルヲ要ス

第十九ハ人心ノ本体ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第三十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第三十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第三十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第三十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第三十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第三十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第三十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第三十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第三十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第三十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第四十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第四十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第四十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第四十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第四十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第四十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第四十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第四十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第四十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第四十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第五十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第五十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第五十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第五十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第五十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第五十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第五十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第五十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第五十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第五十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第六十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第六十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第六十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第六十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第六十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第六十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第六十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第六十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第六十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第六十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第七十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第七十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第七十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第七十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第七十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第七十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第七十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第七十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第七十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第七十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第八十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第八十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第八十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第八十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第八十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第八十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第八十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第八十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第八十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第八十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第九十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第九十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第九十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第九十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第九十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第九十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第九十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第九十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第九十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第九十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百二十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百二十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百二十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百二十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百二十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百二十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百二十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百二十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百二十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百二十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百三十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百三十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百三十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百三十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百三十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百三十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百三十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百三十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百三十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百三十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百四十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百四十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百四十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百四十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百四十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百四十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百四十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百四十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百四十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百四十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百五十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百五十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百五十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百五十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百五十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百五十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百五十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百五十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百五十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百五十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百六十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百六十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百六十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百六十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百六十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百六十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百六十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百六十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百六十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百六十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百七十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百七十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百七十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百七十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百七十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百七十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百七十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百七十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百七十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百七十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百八十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百八十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百八十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百八十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百八十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百八十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百八十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百八十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百八十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百八十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百九十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百九十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百九十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百九十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百九十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百九十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百九十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百九十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百九十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第百九十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百二十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百二十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百二十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百二十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百二十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百二十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百二十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百二十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百二十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百二十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百三十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百三十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百三十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百三十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百三十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百三十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百三十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百三十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百三十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百三十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百四十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百四十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百四十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百四十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百四十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百四十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百四十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百四十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百四十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百四十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百五十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百五十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百五十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百五十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百五十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百五十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百五十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百五十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百五十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百五十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百六十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百六十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百六十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百六十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百六十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百六十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百六十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百六十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百六十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百六十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百七十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百七十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百七十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百七十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百七十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百七十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百七十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百七十七ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百七十八ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百七十九ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百八十ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百八十一ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百八十二ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百八十三ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百八十四ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百八十五ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニスルヲ要ス

第二百八十六ハ人心ノ主宰ヲ明カニスルニハ先ツ人心ノ主宰ヲ明カニス

ヲ論ス

又条約ヲ締結スル人行政行為ニ非ズ行政ト法律命令ノ下ニ於テ働ク所ノ官府ノ行為ヲ条約指ス行政官府ノ権限ニテセズ数ヲ条約ノ下ハ憲法ノ範囲ニ於テ論セラルヽヨリ国際法ニ於テ条約ヲ論ズルハ国ト国トカ条約ニ依リ束縛セラルヽ法律ニ係リ国際ヲ論ズルカ如キ国内ニ於テ如何ナル効力アルカヽ国際法問題トシテ条約ハ法理ヲ条約ハ国ト国トノ約束ヨリ条約ヲ結ブ主体ハ国家ヨリ条約ハ国ノ主権者カ外国ニ対シテ約スル所ニシテ人民ニ対スル法令ト異ナルヨリ国際ノ下ニ於テ各国ハ平等ヨリ国ト国トノ間ニ権力服従ノ下ニ於ヲ故ニ法律命令式ヲ以テ国ニ対スル能ハズ法令ノ権力ヲカ如キ服従者ニ対シテ意思ヲ表示スル形式ヨリ対等ノ地位ニアル独立国ニ対シテハ合意致シタル好ニ命令ニ代ル権ヲ与ヘ

条約ト云フ形式アルヨリ

条約ハ合意ヨリ生ズル人カ或目的ノ為メニ意思ノ合致シタルヲ云フ凡テ好国条約ハ普通ノ私法上ノ契約ノ原則ヲ書テ欺ムルヿハ許サルヨリ然ル大体ノ観念私法上ノ契約モ条約モ同ジ唯私法上ノ契約ハ条約ヨリモ狭ク条約ハ何等ニシタルヲ問ハズ又如何ナル手続ニ於テスルカヲ問ハズ凡テ事実上国ト国トノ間ノ約束ヲ総称スルヨリ

条約ハ天皇ヲ締結ス締結スルトキハ同条約ヲトキハ或人ハ条約ヲ締結ストヽヲ文字ヲ附会シテ恰モ法律ヲ裁可スルヿカ如ク条約ノ実質ヲ定ル権ヲ意味スルヿヲ推ド締結者ニシテ条約実質ハ必ズシモ君主ノ権ヲ定ムルヿヲ云ヒ誤リヨリ条約ヲ締結スルヿハ条約ハ条約ヲ云フヿヲ云フ条約ト締結トヲ区別スル能ハズ条約ノ実質モ条約ヲ締結ノ為ニ天皇ノ大権ヲ属ス又天皇ハ自己ノ目的ノ為メニ

自己ノ締結ニ係リタル所謂第三者ノ為メニ締結シタル契約ハ其第三者ノ利益ノ為メニ締結シタル契約ノ種類ニ入ルモノトシテ民法講義ニ詳カニ知ルヲ得ベシ或人ハ此理ヲ借リ用ヒテ天皇ハ國家ノ代表者トシテ条約ヲ締結ト說明セリ之ヲ政事上ノ見解トシテハ誠ニ然ルヘシ天皇ハ人民社會ノ利益ヲ慮ルカ為メニ外國ト条約ヲ結ンヲ打消シ條ニ条約締結ノ法理論トシテハ条約ヲ結ブ者ハ主權者ナリトスル法理上君主ハ条約ヲ結ブヤウ人民カ条約ノ主体ニ非ズ君主ハ國民ヲ代表シテ代理權ヲ以テ結ブニ外ナラス自己固有ノ權力トシテ自己ノ目的ノ為メニ結ブヤウ君主ヲシテ權ノ主体トナシ國体ニ於テ論結セサルヲ得ス國民各個人ハ条約ノ相手方トナルニ非ス又國民全体カ契約者トナルヲ好ミ國ニ対シ契約書ニ任ス書ハ法理上國ノ主權者ナリ

条約ノ締結ニ付テハ欧州諸國ハ意政体ト我憲法ト大異ナル彼ノ普通ノ慣例トシテ通商条約其他國民ニ負擔ヲ加フル条約ハ國会ノ協賛ヲ経テ之ヲ締結ストナリ之ニ仏國独リ其一般ノ憲法ナリ我國ニ於テハ此制度ヲ採ラス総テ条約ハ何ノモノタルヲ問ハスシテ君主カ大權トシテ之ヲ締結セルコトヲ得ル

仏國独リ其ノ条約ノ解釈ニ付キ二様ノ見解アリ一ハ君主ト國会トカ協同シテ条約ヲ結ブモノナリト解シ一ハ好國ニ対シテハ君主カ之ヲ締結スル所ニ於テ条約カ市勅トスルハ國会ノ協賛ヲ要スルナリト說ク

第一説ニ結果トシテハ好ミ國会カ条約ニ否決シタルトキハ条約締結セラレサルナリ

第二説ニ從フトキハ条約ハ好ノ勅力ト対内ノ勅力トノ二面アリ対外ノ勅力ハ君主ノ大權ニテ国民ト雖モ國内ニ対スル勅力ハ國会カ之ヲ否決シタルトキハ勅力

有セラルヽ論結トナルヨリ於茲猶ヽ実際問題ヲ起ス事トナリ例ヘハ条約ハ國会ノ協賛ヲ経タルモノナルカ君主ノ締結スルモノナルカ国際法上ノ原則トシテハ国ノ首長即チ君主若クハ大統領カ条約ヲ締結スルトキハ然ルニ君主カ締結シタル条約ハ如何ナル運命ヲ有スルカ又君主カ条約ヲ結ヒタル後国会カ之ヲ法律トシテ国会カ之ヲ拒絶セハ其効如何ト云フコトハ学者モ多シ

条件付ノ締結ヲナスト雖モ解スルニ難キ理論アルカ為メニ我憲法第十三条ニ徴シテ可ナリト故ニ我憲法第十三条ニ徴シテ条約ノ締結ハ君主ノ権ニ属スト明言セルヨリ国会ノ協賛ヲ要セス又条件付ノ締結ニモ亦ス君主ノ専ラ独断ニ成立スルヿ明言セルヨリ此点ハ頗簡易ニシテ之ヲ述ヘルモ仏独ノ憲法論ヲ詳ニシテ参照セラルヽヿヲ要スヘシ

今ヨリ二十ヶ年前普国国会ニテ此点ニ付キ議論アリ時ニ Lord Mansfield ノ意見ヲ尽シテ有名ナリ

ヲ述ヘ附録トシテ左ノ報告書ヲ掲ケタリ

フランスハ国法論中ニ条約ノ論ヲ有益ナリ

日本ニテハ明文アルカ故ニ論スルノ必要ナシ然レトモ我憲法ニ付キ実際問題起ル

我憲法上条約ノ締結ハ国会ノ協賛ヲ要セスシテ帝国条約ノ実質ニ制限ヲ設ケテ国民ノ権利義務ニ干係スル通商条約ノ如キ者モ君主ノ決断ニテ締結セラルヽトセハ此結果トシテ又条約ト法律トノ抵触ノ場合ニハ如何トモ新問題ヲ生スルヿ明カナリ故ニ条約ハ国会ノ議ニ附スル故ニ条約ハ締結カ甚タ緩慢ナル法

理トナリ不都合ヲ来ストスル時条約ヲ国内ニ執行スルニ付テハ実際上条約ハ已ニ国会ノ協賛ヲ経タルカ故ニ不都合ヲ生ズルトキハ条約ヲ締結国会ニ容喙ヲ許サヽルヤウ故ニ締結ハ正確ニ且慎敬ニ行ハルヽモ之ヲ国内ニ執行スルヤウ法律ト抵触スル場合ニハ不都合ヲ生ズ例ハ担税ハ法律ヲ以テ課スヘキモノニシテ条約ニテ担税ヲ定メタル人ハ戦産者ノ自由ニ属スルモノニシテ外国ニ動ク能ハサル場合アル

ヲ物ニ条約ニテ特ニ権利義務ヲ定メタル如キ場合ハ外国ニ対シ条約ハ完全ニ成立スルモ故ニ之ヲ廃スルニ通ス然シ国内ニ対シテハ法律ヲ以テスルヽ外ニ之ヲ執行シ能ハサルヲアリ若シ国会カ之ヲ否決シタル時ハ其不都合ヲ生スルヤヲ考フルノ不都合ハ我国法ニ解釈トシテ見レハ

サルヲ以テ我輩ハ未タ不合ヲ遏ル得ルヽ方法ヲ共見セサルヲ以テ不都合ヲ遏ルカ為メニ条約ハ法律ト論ス若

アリ条約ヲ以テ法律ト同ノ者ト見做スハ条約ニモ我ヲ誤ル権利義務ニ定メルヲ得ヘキ故ニ之ヲ法律ヨリ上席ニ置ク説アリ此説ニ対シ我輩

又対セリ

第一ノ条約ト法律トハ性質ヲ異ニシ条約ハ権力ヲ体ニ基ク

強迫命令ナリ

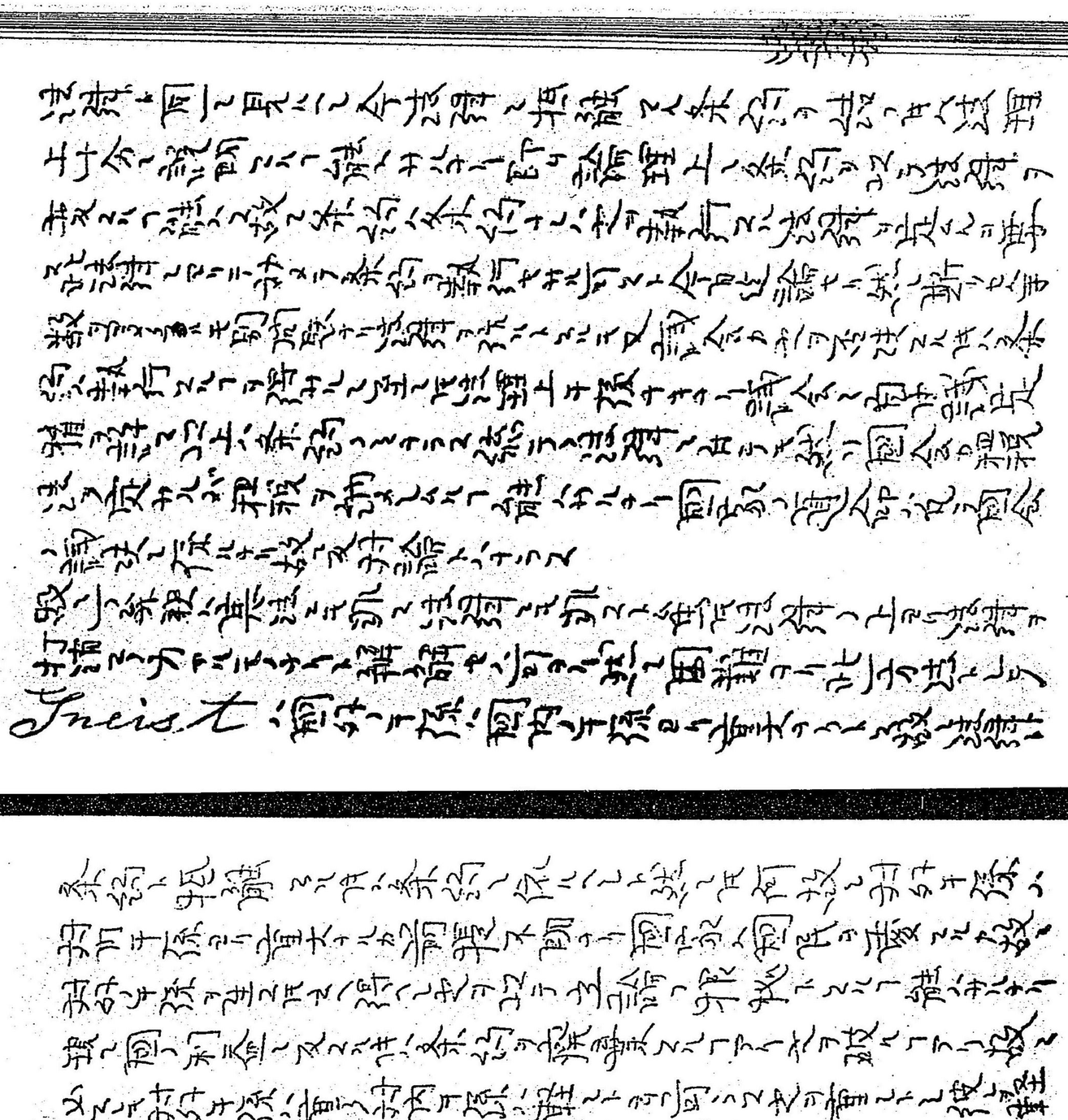
第二ノ条約ハ法律ハ物ヲ異ニシ条約ハ外国ニ対スルヲ法律ハ国民ニ対スルヲ故ニ条約ハ法律ハ同視シ難キ効力ヲ有スルヲ異ニスルヲ

第三ノ法律ト条約トハ共ニ成立ノ形式ヲ異ニシ法律ハ議会ノ協賛ヲ要シ条約ハ議会ノ協賛ヲ要セス故ニ形式上ヨリ条約ハ法律ニ全ク別物ナリ

第四ノ理由アルカ故ニ条約ハ法律ヨリ大家カ現在主張スル物ハ我輩ハ帝ニ反対シ来リ条約ハ法律ト同一ノ効力ヲ有セシメントス

うゝ憲法若くハ法律ヲ記うるヲ」般ニ明言セサル可うて例ハ憲法第十三条
ニ条約ハ国内ニ於テハ法律ト同一ノ効力ヲ有ストヒフ」項アリしナラハ此疑
ハ解ケタリしナラン去レ此其規定ナキ以上ハ之ヲ法律ト同一物ト論ス根拠
ナシ且条約ト法律トハ性質上異ナルカ故ニ問題ハ法律カ条約ニ対シ
如何直接ニ条約ハ法律ナリトスヘキ其理由ヲ論ス者ノ趣意モ
条約ハ法律ナリトヒフ趣意ハ即チ条約ハ条約ナレ法律ト同一ノ権
力ヲ保チしニ欲スルナリ然ルニ其同一ノ論ハ法律ナリトス
ル則チ宜吾ヲ考フハ甚タ」不妥当ヒフヘシ例ヘハ命令ニ対テモ習慣ニ対テモ
或場合ハ法律ト同ジク人民ヲ拘束スル力アリ然ルニ其命令ハ服従
スルモ警察法律ニ対スルモ人民ハ同ジ場合ニ然ルニ此結果
ヲ見テ其間ニ其命令ハ法律ナリト断言スルハ甚タ奇怪ナルヲアル
ベシト同ジク条約ハ法律ナリトスルハ論ス上ニ已ニ不穏当ナル明カリ例ハ

米国憲法ニ於テ条約ハ国ノ法律ナリト宣言セリ之ニ甚タ適当
ナル規定ニシテ我国ノ憲法ニモ条約ハ法律ト同一ノ力アルカ
或ハ法律ヨリ強キ力アルカ定ムルニ当リテハ米国ノ如クナラハ此疑ハ立チ
ヲ解ケルナラン米国憲法ノ注釈者ハ次ノ如ク説
明ヲ為シテヘリ
事実今ノ条約ト法律トノ保ハ甚タ困難ナリ実際ノ取扱ハ
条約ハ法律ト同ジク人民モ之ヲ同ジモノト思ヘリ所ノ之ヲ文必要ナルナリ
然ルニ法理上ヨリセハ国法ノ不満ニシテ明文ナキ以上ハ如ク解釈ス
ルヲ能ハサル憲法執行前ノ条約ハ之ヲ執行スルニ至ル文執
行セサル憲法ハ補則ニヨリテ法律ト同ジク取扱ヘキモノトス然シテ今
急遽結ハ条約ニ付テハ国駁起ルヨリ生ス陸上ヨリセハ之ヲ法律
ト同一ニ看做サルヲ大ニ不都合ヲ生ス故ニ文明官ヲ行政官モ之ヲ



第八章　司法權

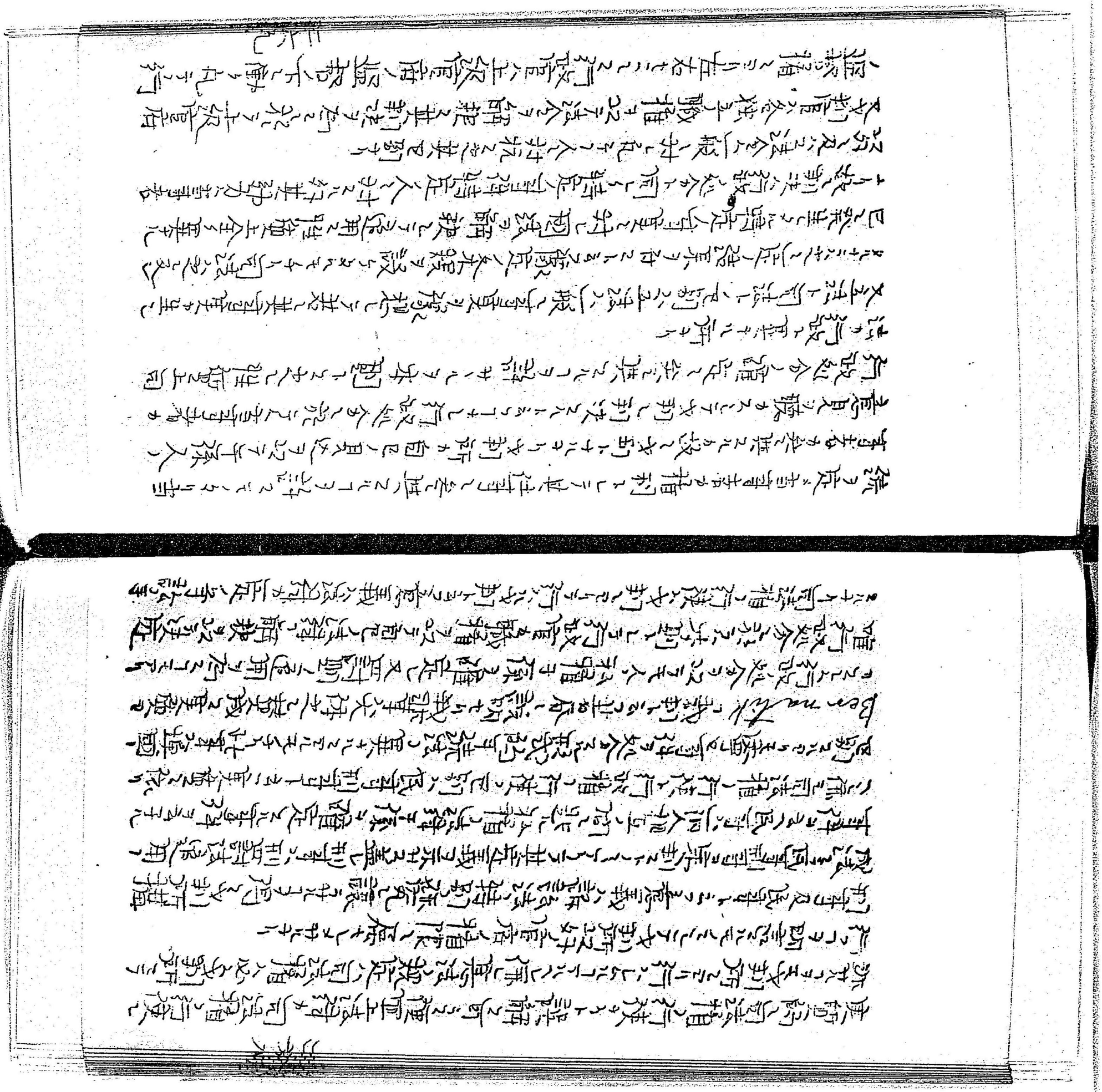
統治權ノ働ヲ分チテ立法司法行政ノ三者トスル觀念カ既ニ立憲政体ノ基礎ヲ形ヒスルコト已ニ屢々述ヘタリ我政体ハ彼ノ三權分立論ヲ採用セサリシト雖トモ彼ノ政体ノ發達シタル立法司法等ノ已制ヲ見テ我憲法ノ司法權トスルコトヲ掲ケタリ故ニ單ニ文字ノ解釈ノミニテハ之ヲ解スルコトヲ得ス何ルヘヲ知ルヲ要ス

憲政ノ発達ニ照シテ司法權ノ何ルヘヲ知ルヲ要ス

司法權ハ法律ヲ適用シ事件ヲ決判スル國權ノ働ヲ指テ謂フトシテ民事刑事ノ事件ヲ法律ニテ定メタル手續形式ニヨリ独立ノ裁判所ニテ之ヲ審判スルヲ通常司法權ノ働キトシ司法權ハ立法及行政權ト分離シ立憲政体ノ特質ノ一ナリ故ニ立法ト司法トハ已制ヲ為サリシコトアリ特制ノ事件起リタル時ハ其事ニ臨ミテ適當ノ処置ヲ為レ共判官カ法ヲ作ル如ク又立法

主ヲカヤ判スル如ク一般ニ法律カ独立シテ存在シ裁判所カ之ヲ見テ之ヲ適用スルニ止マリ自ラ法ヲ作ル權ナシ之ヲ立憲政体ノ精神トシテ此意ヲ全クスル為メ既制政体ニ於テハ法權ト司法權トヲ分離シ行政又ハ法律ヲ適用シテ特定ノ事ヲ判スル働ハ法律ノ範圍内ニ於テ國權カ自由ニ運動シテ國家ノ目的ヲ達スルコトハ性質ヲ異ニスル故ニ又司法ハ行政トヲ已制シ行政ハ司法ヲ已制シ互ニ其權ヲ侵サヽル様ニ規定ヲ憲法ニ設ケタリ是ハ主ニ司法行政ノ働カ各獨立ヲ異ニスルヲ明記セントスルニ外ナラス

司法權ノ性質ハ民事刑事ノ事件ヲ判スル働ニシテ其形式ハ法律ニテ定メタル訴訟ノ手続ニヨリ之ヲ裁断スルトスルニ在リ此二種ノ訴訟ハ自ラ別ナリ司法權ハ之ヲ判所ニ行フ主權者ノ機関トシテ天皇ノ名ニ於テ行フ主權者ノ機関トシテ天皇ノ名ニ於テ行フ主權者ノ機関トシテ天皇ノ名ニ於テ行フ司法權ハ之ヲ判所ニ行フ

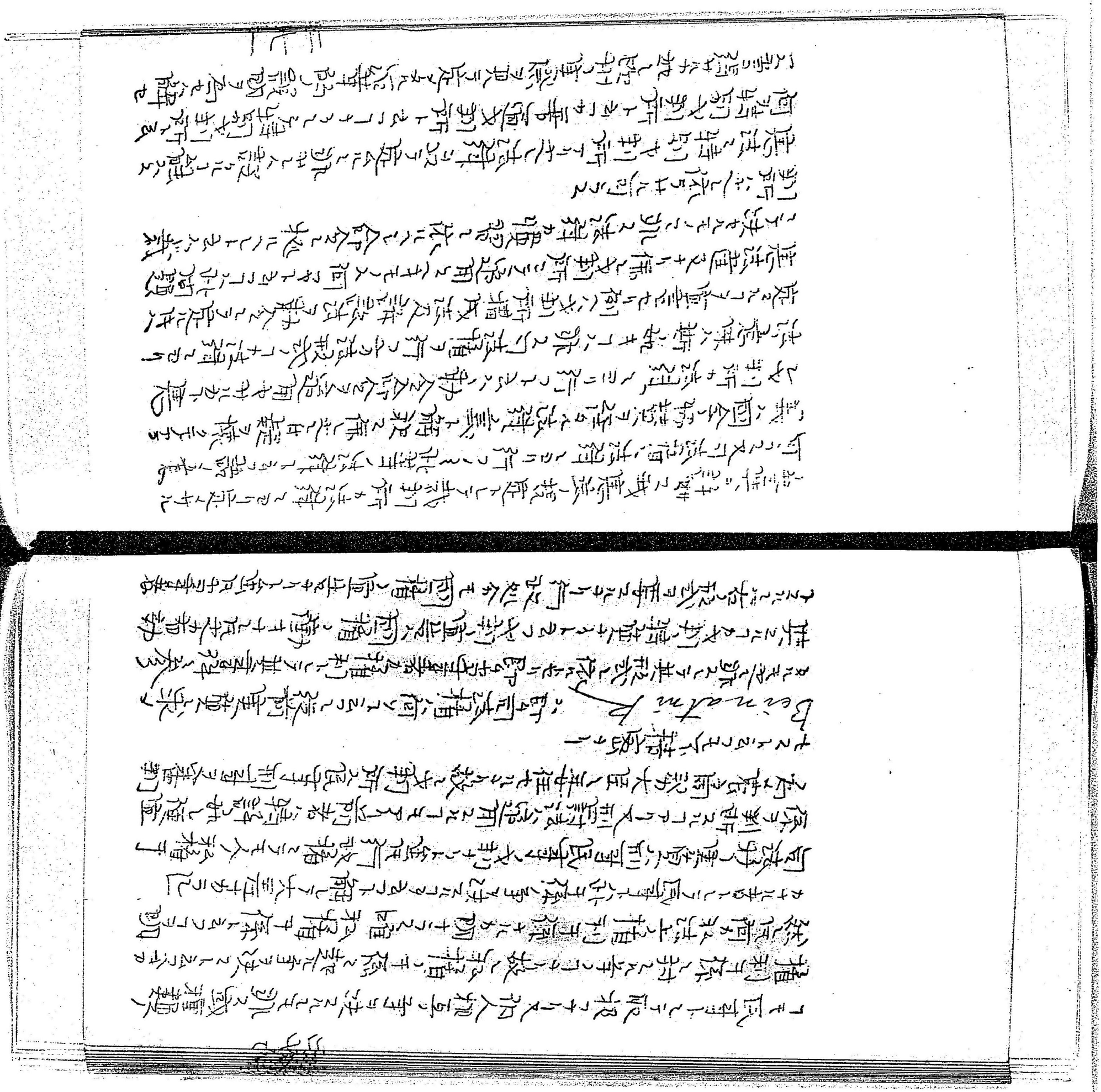


故ニ今ハ議会ノ議決ヲ以テ之ヲ左右セラルヽモノトシ之ヲ行政官ト判官トハ職権行使ノ方法ニ異ナル所アリ

司法権ノ発達ニ於テハ諸国ノ歴史ヲ見ルニ人民相互ノ民事ノ争ヲ国家カ判スルハ国家当然ノ職務ニ属スルモノニシテ人民間ニテ処置シタリキ此時代ハ民相互ニ財産上ノ争起ルトキハ族内ノ尊ニテ制裁ヲ為シタリカ遂ニ親族ヲシテ共同体ヲ組ミ共同体ヲ以テ家ニ及ホシ家ヲ養育シ村ヲ為シタリ次ニ大ニシテハ五人組ノ如キ制度ヲ作リ町村ノ如キモ至リ其町村ノ有力者ヲ尊信シ村ヲ古ハ社会自然ノ発達ニ任セリ時代ニ発達シタルモノニシテ民法ハ即チ慣習ヨリ礼義ヨリ中世集権ノ時代ニ至リ之ヲ国家的ノモノトセリ君主カ総テ判スルハ法案ヲ生セリ何トナレハ時ニ已ニ国家的ノモノトセリ

立法ト司法ト混合シタルカ故ヨリ像ヲ刑罰法ヲ設ケテ臣人ヲ庶ニシテ之ヲ罰スルトキハ何国ニ於テモ起リタリトナス所ノ分立ト法ト司法ヲ分離セシメハ政体ノ進歩ニ於テ孤国ノ歴史ヲ見ルニ最モ明ナリ大抵分立主義ト法律ト司法ト混合ス可キトキハ三権主義ヲ採用セサルモ司法ト法ト混合ス可キトキハ三権主義ヲ採用セサルモ司法ト法ト混合スルヲ解釈スルヲ知ラサル可シ

原法ニシテ司法ト何ヲヤ同実質ニ出ツルトキハ立法ト司法ト分離スルヲ原義ハ政府ニテ明瞭ナル人別ニ注解スルヲ必要トセサルヲ判所構成法律併ニ条ニ判ル所トスルハ故ニ司法ト民事刑事ニ関スル訴訟ヲ認ムルモノナリ然レトモ民事刑事ニ関ヤ刑事ハ刑罰ヲ適用スルトモ民事ハ何ヤ好国ノ法律ヲ以テ人民相互ニ手ヲ判ルヲ以テ何人ヲ国庫ヲ抑ヘルヲ訴ル



サレ之ガ刑ニテハ普通裁判所ニテ不可ナルモノ種々特別ナル裁判所ヲ設ケラルルガ如キモノヲ除外例トスベキモノ大ニ変アルヤウニテ特ニ特別裁判所ト呼ビキラルルナラン

裁判所ノ管轄ニハテハ Gerichtsbarkeit ノ問題ニテ別ナリ

政体ノ管轄ト裁判所ノ管轄ト国会ノ管轄及各星ノ管轄ヲ研究セサル可ラス

大積ガ現ニテ命令ナリ之積ガ現ニテ法律ナル

第九章 行政

行政ヲ行政権トキツ結ビ政刑ノ通常ノ解釈ニテハ之ヲ大権ト屈セス

主法司法権ニ対シテ行政権トキツトキハ意味ニテ行政ハ国会若ク議

判所ノ権限ニ属セサル凡テノ国家ノ働ヲ含モキリ比観念ニ付テハ Verwaltung

我憲法ニ於テ行政トキハ大権及法律ニテ行ハルル法令ヲ執行ト及命令ノ

立憲政体ヲ保持シ臣民ノ幸福ヲ増進スル為メニ官府ノ行フ所ノ国務ノ働キヨリ行政ハ大権及立法権ノ下ニ於テ国家ノ目的ヲ達スル働キナリト見ルベキナリ

前述ノ仏国ニヨリ出テ欧州ニ普通ナル観念ト該ニ述ル所トヲ比較シテ政体ニ別ニ本ヨリ差異ナシト知ルベシ若シモ君主ヲ以テ法律ノ下ニアルモノトスレバ君主ノ大権ハ所ケ立法権ノ下ニ働クナリ君主最高ノ官府ヨリ官府ハ法令ニヨリテ設ケラレ法令ニヨリテ権限ヲ有スルモノナリ若シモ君主ハ主権者ニシテ官府ニ亦ニ立法権ノ主体タルトキハ主権直接ノ行動ハ立法権ノ下ニアリトモコレヲ得ベキ我政体ハ君主ヲ以テ主権者トスルカ故ニ大権及立法権ノ上ノ也別ナシ君主即チ主権者ニ直接ニ行動スル形式ヨリ又之官府ハ君主権者ニ亦ニ主権者ノ機関ナリ官府ハ法令ニヨリテ設ケラレ権限ヲ有ニ立法権及大権ノ下ニアリテ法令ヲ執行シ国家ノ目的ヲ達スル為メニ設ケラレタル機関ナリ故ニ其権限ニ依リ働キハ主権者其者ノ働キナリト也別セサル可ラス故ニ大権ト行政ト也別アルナリ行政ハ官府ノ司ル所ノ大権ハ君主ノ親裁スル所ナリ大権ハ法律ノ外ニアリテ以テ行政ノ観念ヲ明ニスルニ足ルベシト信ス

行政権ト称シテ別種ノ権力アルニ非ズ国ノ事務ノ分配ノ名称ナルニ過ギズ行政ハ亦タ国権ノ働キニ外ナラズ

行政ノ実質的ノ範囲ヲ論スル従来ノ普説ニ種々ノ見解アリ仏国ニ行ハレタル系統ニ属スル憲法論ハ行政ノ実質的範囲ハ法律ヲ執行スルニアリトス法律ノ規定ノ執行スル場合ノ外行政ノ権限ヲ以テ人民ノ自由ヲ制限スル命令処分ヲ為スヲ得ストスルナリ又之独リ或部分ノ学者ハ何ヘ

然れども行政の実質が法律の執行たることを安寧秩序福祉の維持たるの目的とすることを主張しより仏国独逸の憲法論として此見解の可否は容易に決し難しと雖も憲法の解釈として疑なき行政の実質的範囲は法律の執行たること法律に抵触せざる限り命令権をも有し又安寧秩序福祉の保持を為すべき法令範囲内に於て自由に活動し国家の目的を達するものなり此事憲法第九条の行政命令の範囲の規定に明言せざるより故に一般の理論に拘はりて討究すべき憲法第九条の文字精神は行政の実質的範囲を示すものと見て可なり唯之法律の執行のみならず安寧秩序の維持のみならず進歩的の積極的国家の利益の振興を計るも行政の目的なり

行政は立法及大権と区別すべき憲法上の精神に基き我政体の趣意を明にすべし故に通説に従ひ明に要するに凡そ憲政体の主義として法律を法人に法律を行ふ人即ち行政官と同一なれば国権を乱用するの恐あり故に立法権と行政権とを区別すべき此趣意は憲法に明に特用せざるより然し政体に於て此区別を明会とすべき主義は法律より寡主は行政者より此観念は主権者と雖も故に国体上寡主の立法と行政とは根本的に動かすべからざる分離なるべし

国体を論ずるに立憲主義を達し得ること難かるべし即ち立憲主義国会と政府とを区別し寡主は立法権を行ふは国会にあり国政を執行するは政府に依り政治実際上立法者と行政者とを区別せざるべし特に政府の寡主義と国会に決して混同せざる十分主義の主義を採用しなんぞと見るべきなり又行政と大権とを区別しなる結果として法律は国の主義を完全に達せざる所謂法治国主義とは国家と人民との間に法則を定めり国法を執

好ハ何人自由ヲ制限セラルヽコトヲ観念ナリ

ヒ主義ハ元ヨリ政治的ノモノナレ共ハ法ノ進歩ハ常ニヒ主義ヲ実行セントスルニ進ミツヽアルナリ然ルニ主権ハ性質上何人ナリトアリ人民ハ性質上ノ人ナリ人民ト主権者ト人民トノ関係ハ法律ヲ以テ定メラルヽモノナリ故ニ主権者ハ人民ノ自由ヲ制限スルコトヲ得キ法律ヲキカ如シ然レ主権者ハ人民ノ自由ヲ制限スルコトヲ得ルト即チ行政ト立法権トヲ分チ行政ハ法律ノ下ニアルモノトスルカ故ニ大権及法律ヲ以テ行政ヲ束縛シ人民ノ自由ヲ担保スルヲ得例ハ行政ノ制度ノ如キハ行政ハ常ニ観念実情及立法ヨリ分ケシ非ハ実行ニ無ク故ニ其法ノ精神ヲ顧ミルヲ行政ノ大権及立法権ヲ働ノモノナリトスル解釈ヲ要ス

コヽヲ解スヘシ既ニ説ハ漠然ト行政トハ君主ノ権限ヲ謂フ故ニ行政ヲ言ハ法律ヲ以テ定メラルヽ法律ハ君主ノ法律ヲ以テ定メラルヽ法

権ノ下ニアリトスルヲ得テ然ルニ君主ハ一ノ行政官ニシテ最尊ナル主権者ニ非ス然ルニ尚君主ハ神聖ナリト雖モ法律ハ君主ノ法律ヲ以テ可ラストスル故ニ行政ノ行方ハ法律ニ拘ラサル所ナリ故ニ行政ハ法律ニ拘ラサルヲ以テ政体ト大ニ異ナル所ヲ了解スヘシ

GANSHODO-SHO
KANDA TOKYO
雁金書房
東京神田

2320
71

35754

帝國憲法

購入
衆議院
13.1.20
圖書館